

〔資料〕

## 妙高山靈光寺所蔵『妙極堂遺稿』翻刻と解題(5)

寺津 麻理絵・関口 静雄

### 〔解題5〕高野下山

『妙極堂遺稿』第五冊巻五には、覚彦浄厳が高野山にあって雲農と称していた寛文九年(一六六九、三十一歳)から寛文十二年(一六七二、三十四歳)に到る四年間に草した詩・賛・寺記・縁起・過去帳序・過去靈簿題辞・消息・灯笼銘・鐘銘・募縁疏・舍利記・表白など三十余篇の著述が収録されている。その中に、法弟朝応・賢龍・賢意に宛てた「責<sup>ツル</sup>朝応賢龍賢意、三子者之怠<sup>ツル</sup>学<sup>ニ</sup>文」と、法兄頼周一音に宛てた「与頼周大徳書」があって、浄厳が高野を下山した当時の、止住した宝性院における動向が垣間見られて興味深い。

浄厳は慶安元年(一六四八)十歳のとき、高野山に上って悉地院主雲雪を師として剃髪し、幼いころから自称していた空経を捨てて覚彦雲農と称し、以来二十三年を高野に住山した。その間、明暦三年(一六五七)七月に師雲雪が遷化した後は釈迦文院・宝性院を主宰した朝遍を師として学侶に交衆し、万治元年(一六五八)六月には南院良意に従って安流の許可を受け、寛文元年(一六六一)正月には二十三歳にして安流の伝法阿闍梨位を受けた。しかし法弟の指導をめぐって法兄頼周一音と間隙を生じ、寛文十年(一六七〇)九月、その怨讐ゆえ殺害を謀った頼周から刃傷を受け、三十二歳にして山を下りて粉郷鬼住に帰った。老母のもとで養生する間、南院良意から頼りに帰山の要請を受けたが堅く辞し、翌十一年(一六七二)正月、三十三歳にして高野の交衆を辞した。

浄厳の高野下山は、直接的には法兄頼周から刃傷を受けたことに起因す

るが、蓮体の『浄厳大和尚行状記』には頼周が浄厳を執念深く殺害しようと企図した根因は、「常ニ和尚ノ英才ナルヲ妬ム」と浄厳の英才に対する頼周の妬心であったと伝え、法弟の指導をめぐる軋轢についてはまったく触れていない。

蓮体は延宝二年(一六七四)正月、十二歳で浄厳の弟子となり、父玄沢の教えに従って十五歳の時に師浄厳の伝記を撰述する決意をし、以来随従した二十九年間、師の動向を記録し資料を蒐蓄し続けた。何より蓮体は浄厳の俗甥に当たり、他の弟子には窺い知ることのできない師の一面も、おそらく浄厳自身あるいはその周辺から直接間接に聞かされていたはずである。ことに高野下山は密乗僧としての浄厳にとって、その人生を左右する重大事であり、蓮体が浄厳の膝下に入る直近の出来事だった。蓮体が「責<sup>ツル</sup>朝応賢龍賢意、三子者之怠<sup>ツル</sup>学<sup>ニ</sup>文」と「与頼周大徳書」の存在を知らなかったとは到底思われない。しかし『浄厳大和尚行状記』はそれには触れず、法兄頼周の浄厳に対する妬心と刃傷事件の顛末を伝えている。

浄厳の英才ぶりは高野入山直後から知れ渡り、紀州大納言徳川頼宣は朝遍が謁する折には空経房を同道するよう命じたほどで、学・行ともに優れた詩賦歌文章にも巧みであったから、朝遍は金子四百余両を費やして唐本儒書を求めて浄厳に付嘱し、また「佞邪ヲ悪ミ学者ノ懶惰懈怠ヲ戒」める剛直な人となりは朝遍や良意からはなはだ愛重され、朝遍の跡を継ぐのは浄厳であることは誰の眼にもあきらかだった。

寛文十年秋八月、浄厳が即身義・悉曇字記の奥義を講じて野山学侶を歎伏せしめた直後、師朝遍は東都に下向するに際して、宝性院の監司を浄厳

に囑託し、頼周には玄関傍の多聞部屋での賓客接待役を命じた。「釈迦文院ノ住職ニ心ヲ繫テ望」んでいた頼周は、朝遍のこの指示に激怒し、「倍嫉妬ノ心盛リニ起リテ思ハク、今般宝性院ノ監司ヲバ我コソ勤ムベキニ、彼ニ託セシコト何事ゾヤ。這ノ底ナラバ釈迦文院ヲモ覚彦ニ付囑セラルベキ事決定セリト、大ニ憤リ安カラズ思ケレバ、間ヲ伺テ和尚ヲ殺害セントゾエミ」、九月二十八日夜、道場で荒神供を修していた浄厳に小刀をもって左腕に二刀を突き刺し、頭上に四刀の切傷を負わせたのだった。頼周は逃走し、浄厳は静かに山を降りた。

想えば正保三年（一六四〇）八歳のとき、初めて高野に登って伽藍を巡礼した少年空経を、高野の衆僧は悦び歓迎して大師自筆の宝物を残らず閲覧せしめたほどであった。その懐かしい高野はかくも人心が荒廃した。「退隠シテ寂靜ニ道ヲ修センニハ」と浄厳は出塵の志を固め、高野の交衆を辞したのだった。

蓮体『浄厳大和尚行状記』は右のように伝えるが、浄厳の胸中には出塵の志は刃傷を受ける以前から存したものと思われる。

寛文九年（一六六九）二月、浄厳は法弟朝応・賢龍・賢意に宛てて「責ムル朝応賢龍賢意ノ三子者之怠<sup>アル</sup>学<sup>ニ</sup>文」を書き送った。出家の身でありながら三人がともに「懈倦之過」と「背<sup>レ</sup>德<sup>ヲ</sup>違<sup>レ</sup>スル恩<sup>ニ</sup>之咎」を犯すこと甚だしかったからである。朝応には「行狂<sup>セリ</sup>」、賢龍には「性魯<sup>ナリ</sup>」「慢心高大」、賢意には「不進学問」と当人たちの難点を明確に衝いて厳しく叱責し、一つでも事実誤認があれば反論せよと記しながら、三人に反省の心は生ずることがあるまいと、すでに突き放した印象を受ける。浄厳は三人の法弟に懈怠を叱責する一文を送ったことを師朝遍に報告し、さらに法兄頼周一音に一書を呈した。その「与頼周大德書」には、法弟三人の懈怠不行跡の根因が頼周にあり、飲酒ばかりか男姪の重禁まで犯していることを指弾している。この法弟・法兄への書信によっても当時の高野山に悪風が蔓延していたことが容易に推測されよう。

『浄厳大和尚行状記』は浄厳の高野下山を、伝法の悉くを三十五歳の若さで灌頂し、墮落した真言宗の建て直しを図った興教大師覺鑱（二〇九五

〜一四四）が、腐敗した僧派閥により高野を追われても、やがて退歇した根来山で宗乗を興隆したことを例に引き、「和尚モ南山ニ住シ玉ハ、徒ニ碩学、門主、檢校法印ト呼ノミニシテ真実ノ興隆アルベカラズ。頼周カ逆ヨリコソ却テ弘法利生モ広カリケレ。延命寺ヲ草創シ靈雲寺ヲ開基シテ法流ヲ流布シ玉フ事、豈、広大ノ興隆ニアラスヤ」と結んでいる。それは浄厳の感慨でもあって、おそらく浄厳は早くから自身の行実を覺鑱のそれに重ねていたものと思われる。

なお、巻五を書写したのは泰禅であるが、『妙極堂遺稿』七巻七冊の書写に関わった人物のうち、この泰禅だけが巻五書写のほか行実が知れない。加えて、この巻五全篇の書写本文を見ると、明らかに複数の筆体が存する。一丁表の冒頭から六丁裏までと、七丁表から三十六丁表までの筆体は明らかに相違する。指摘し、後考に期したい。

#### 〔追記〕

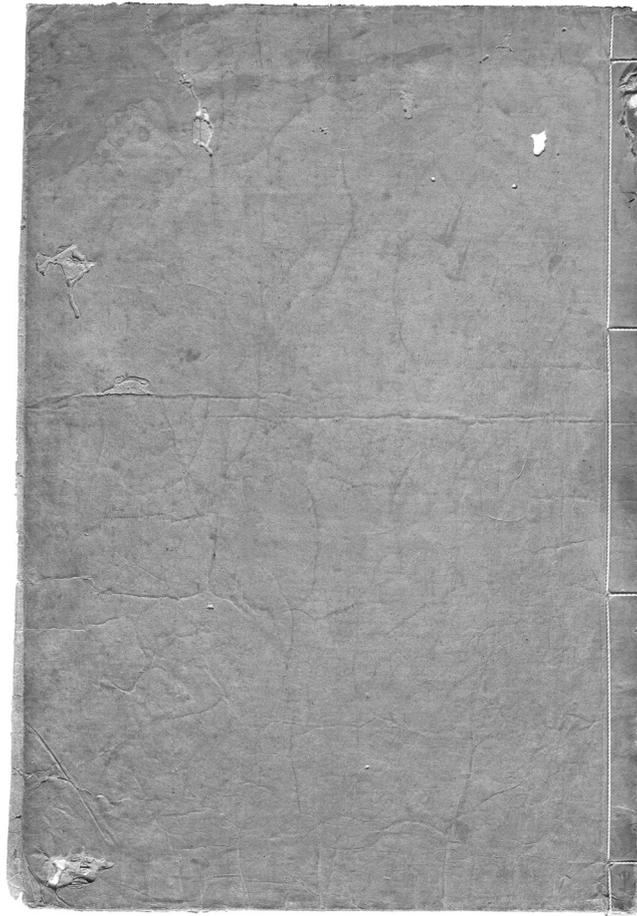
画像処理・翻刻文作成について次の諸氏の助力を得た。御礼申し上げます。

岩城佑希（大学院生活機構研究科生活文化研究専攻二年）・岡本夏奈（同一年）・宇治かおる（歴史文化学科三年）・鈴木香菜（同）・高橋花乃（同）・竹村佳奈（初等教育学科三年）

（関口静雄）

#### 【翻刻凡例】

- 1 妙高山靈光寺所蔵『妙極堂遺稿』（写本、全七冊）の第五冊目巻之五を翻刻する。洪茶色紙表紙、袋綴装、縦二七九mm・横一八五mm。
- 2 原則として通行の文字表記を用いて翻刻した。
- 3 行取・清濁・誤字・宛字は底本のままに翻刻し、改丁は「⑤01オのように示した。
- 4 踊字・繰返符号は二字分までは底本のままとし、それ以上は通行の表記に改めた。
- 5 訂正・削除・後補等の指示がある時はそれに従い、後補挿入した文字には、「妙」のように傍点を付した。
- 6 韻文には適宜空格を施した。
- 7 判読不能の箇所は□で示した。



⑤表表紙

妙極堂遺稿卷之五

侍者僧某等編錄

寛文九己酉年 行年三十一

責朝應賢龍賢意ノ三子者之怠學ニ文

夫裁之時培之平築之密則欲足于合抱滿於十圍  
充于大夏之棟梁也墾之耨之耕之種之芸之則欲  
其方實而大獲也教而習之誨而諭之激而勵之懇  
懇不怠則欲其字成行力而功蓋万世化被四海也  
今子等有教誨激勵之師而無繩頭錐股之勤如是  
則不能益于一日化于一家況其万世乎況其四海

妙極堂遺稿卷之五

侍者僧某等編錄

寛文九己酉年 行年三十一

責朝應賢龍賢意ノ三子者之怠學ニ文

夫裁スル之時ハ培フ之平ニシ築ク之密ナルコトハ則レ欲スレハナリニ足ル于二合抱ニ滿テ、於二十圍ニ  
充ル于二大夏ノ之棟梁ニ也、墾キ之耨ヒ之耕ム之種ヘ之芸ム之則レ欲スレハナリニ  
其ノ方ナリ實ニ而大獲ス也、教ヘテ而習ハシ之誨ヘテ而諭シ之激シテ而勵シ之懇ニ  
懇ニ不レ怠ス則レ欲スレハナリニ其ノ字成行力而功蓋ス万世ニ化被ス四海ニ也、  
今子等有教誨激勵之師ニ而無シ繩頭錐股之勤ニ如是ハ則不能益ス于一日ニ化ス于一家ニ況其万世乎況其四海ヲ

(白丁)

⑤表表紙見返

⑤01才

乎今略舉子等懈倦之過責背德違恩之咎子等儻  
有一事之非實早陳之我我敢不拒固雖不屑請有  
所益子等克念

我聞一句粉骨半偈碎身求法忘船上世大人但能  
之及至季末下流一簞鹿飯不堪青春之永晝半膝  
單衣無忍玄冬之嚴寒其或不然而為活生命使令四  
方通命問安雖措心于學學不可得是曰無衣無食  
受無暇之身故業不成矣子等苟以區區之質泰逢  
拊畜之恩慙惻之深無不使食飽無不使衣煖自卯  
至午自午至哺及亥不委一事惟學是力要在欲使

子等學成行肅不混庸流耳然不學不勤豈曰無衣  
曰無食無暇耶背恩之甚湯鑊誰救

我聞衣在食在暇又在矣難逢者師也已故古之人  
千里負笈得得問津善財童子經百餘城遍覺三藏  
歷五印度皆求師也宿植善本之人尚既如斯澆季  
凡人豈易遇哉我學匪全牛才慙半豹雖然晨誨夕  
勵無日而懈子等雖聞不學雖學不勤曰之無師耶  
曰遠求之難耶

我聞梅檀香樹纔芽即熏獅兒三歲便大哮吼子等  
莫言吾輩未幼雖有教誨激勵豈堪之耶三歲是豈

乎今略舉子等懈倦之過責背德違恩之咎子等儻  
有二一事之非實早陳之我我敢不拒固雖不屑請有  
所益子等克念

我聞一句粉骨半偈碎身求法忘船上世大人但能  
之及至季末下流一簞鹿飯不堪青春之永晝半膝  
單衣無忍玄冬之嚴寒其或不然而為活生命使令四  
方通命問安雖措心于學學不可得是曰無衣無食  
受無暇之身故業不成矣子等苟以區區之質泰逢  
拊畜之恩慙惻之深無不使食飽無不使衣煖自卯  
至午自午至哺及亥不委一事惟學是力要在欲使

子等學成行肅不混庸流耳然不學不勤豈曰無衣  
曰無食無暇耶背恩之甚湯鑊誰救

我聞衣在食在暇又在矣難逢者師也已故古之人  
千里負笈得得問津善財童子經百餘城遍覺三藏  
歷五印度皆求師也宿植善本之人尚既如斯澆季  
凡人豈易遇哉我學匪全牛才慙半豹雖然晨誨夕  
勵無日而懈子等雖聞不學雖學不勤曰之無師耶  
曰遠求之難耶

我聞梅檀香樹纔芽即熏獅兒三歲便大哮吼子等  
莫言吾輩未幼雖有教誨激勵豈堪之耶三歲是豈

壯齒耶萌芽是豈十圍耶然則雖言幼少非不能也  
克念  
我聞心不在斯見而不見聞而不聞食而不知其味  
也子等或有時讀誦只是耳在吠犬眼在飛鳥一志  
逸遊非心不在斯之謂乎如此則雖累乎年不見成  
功畫脂鏤冰之譏可坐而待  
我聞修學有五蓋障所謂掉悔蓋睡眠蓋云云子等  
雖言輕蔑於我頗亦有所忌故我在則多否若我出  
則剝啄之響未盡諧笑之聲嗷嗷非論文說字之談  
只管無義之戲也甚則跳躑馳奔弄飛礫竿上竿凡

夫有損無益之事無所不為於是興盡遊閑身疲神  
倦就牀而卧跨爐而睡鼻息齶齶如也夢蝶翩翩  
然也雖迅雷奮擊復不可喚起也是則掉睡兩魔為  
蓋障明矣不可不驅  
我聞養子不教父之過訓導不嚴師之惰父教師嚴  
兩無外學問無成子之罪矣今於子等曰養而不教  
乎曰訓導不嚴乎曰學問無成乎請擇此三者速聞  
于我  
子等若言出家也者本期離業繫苦得寂滅樂故看  
經持咒觀練熏修我欲之餘非意耶夫教授子等之

壯齒ヲ萌芽ハ是豈ニ十圍ニヤ耶然レハ則雖レトモ言フニ幼少ニナリト非レ不能レハ能ハ也  
克念  
我聞心不在スレハ在スレ見ヘ見ヘ聞ヘ聞ヘ食ヘトモ而不知レ其味  
也子等或ハ有時キ誦讀ス只是耳在ス吠犬ニ眼在ス飛鳥ニ一ハ志  
逸遊ヲ非キ心不在スレ之謂ニ乎如此則雖累乎年不見成  
功画脂鏤冰之譏可ニ坐ニシテ待  
我聞修學ニ有五蓋障ニ所謂ニ掉悔蓋睡眠蓋云云子等  
雖言輕蔑於我頗亦有所忌故我在則多否若我出  
則剝啄之響未盡諧笑之聲嗷嗷非論文說字之談  
只管無義之戲也甚則跳躑馳奔弄飛礫竿上竿凡

夫有損無益之事無所不為於是興盡遊閑身疲神  
倦就牀而卧跨爐而睡鼻息齶齶如也夢蝶翩翩  
然也雖迅雷奮擊復不可喚起也是則掉睡兩魔為  
蓋障明矣不可不驅  
我聞養子不教父之過訓導不嚴師之惰父教師嚴  
兩無外學問無成子之罪矣今於子等曰養而不教  
乎曰訓導不嚴乎曰學問無成乎請擇此三者速聞  
于我  
子等若言出家也者本期離業繫苦得寂滅樂故看  
經持咒觀練熏修我欲之餘非意耶夫教授子等之

書何耶曰秘鍵也曰即聲吽也秘鍵開般若之幽致  
即聲吽抽三密之秘旨誦此書豈非看經持咒尋其  
旨又非觀練熏修治一心之慧刀滅德劫之罪敵不  
為不足況子了朝梵夕誦之時未有不眠肯阿泥盧  
豆在說法會中獨睡佛呵曰咄咄何為睡螺螄蚌蛤  
類阿泥盧豆即起白佛自今已後形融體爛終不復  
睡因達曉不睡眼根便失不睡眼失猶尚懷愧發誓  
如此子等慙愧之心毫釐不有只袖手偻脊欲煥而  
睡耳如何如何  
子等言雖習誦無倦如經日太少何罪不早詣甚不

可耶今所讀之吽字義紙有二十六行則十二字則  
十七總計五千三百字起自十一月二十九日終于  
正月二十九日計日滿六十每日不足百字況今月  
一日至十二日後之促急誦緩日少乎字又大半  
已讀之字曰字難乎不通利之責何以塞之  
朝應子膽大非勇行狂非佯好無義之論嗜有損之  
戲谿壑可填爾欲難盈雖前已說子絕二子故別責  
之子在靜室則睡在鬧處則懈不靜不鬧之處也少  
矣然則雖沒齒空心徒手而畢焉晨激暮誨有如馬  
耳東風豈敢入耶掉頭所為也誨而不可膽之大逾

書何レヤ耶曰ク秘鍵也曰ク即声吽ナリ也秘鍵ハ開キ般若之幽致  
即声吽ハ抽ク三密之秘旨ヲ誦セバ此書ヲ豈ニ非ニヤ看經持咒ニ尋ネハ其ノ  
旨ヲ又非ニ觀練熏修ニ治ニ一心之慧刀ヲ滅ニシテ德劫之罪敵ニ不  
為レ不足ラ況テ了テ朝梵夕誦之時未レ有レ不レ眠コトハ眠昔シテ阿泥盧  
豆在テ說法ノ會ノ中ニ獨リ睡リ佛ハ呵シテ咄カカナナレシレ  
類ナリト阿泥盧豆即起テ白佛自今已後形融體爛終ニ不レ復  
睡一因達曉不レ睡眼根便失ス不レ睡眼失スルニ猶尚懷愧ヲ發スコト誓  
如此子等慙愧之心毫釐不レ有ラ袖手偻脊欲ニ煥ニシテ而  
睡一コト耳如何如何  
子等言ハンカ雖ニ習誦無レ倦如ニ經レコト日太少ナキコトヲカセン罪不レ早ク詣甚不

可上レト耶今所レ讀之吽字義紙有二十六行ハ則十二字則  
十七總計五千三百字ナリ起テ自十一月二十九日終フ于  
正月二十九日計日滿六十毎日不足百字況今月  
一日ヨリ至十二日後之促急ス急スコトハ誦緩日少乎字又大半  
已ニ讀メ之字曰字難乎不通利一之責何ヲ以テ塞カシム  
朝應子ハ膽大シ非ニ勇行狂非ニ佯好ニ無義之論嗜有損之  
戲谿壑ハ可トモ填ル欲難盈雖前ニ已ニ說ク子ハ絶ニ二子ニ故ニ別レ責ム  
之子在ニ静室ニ則睡ル在ニ鬧處ニ則懈レ不レ静不レ鬧之處也少  
矣然レト雖レ没レ齒空ニ手徒手ニシテ而畢マシテ焉晨ニ激シテ暮ニ誨フレトモ有レ如ニ馬  
耳東風ニ豈敢テ入ラシヤ掉頭レ所レ為ル也誨フレトモ而レ不レ可キ膽之大ナリ  
大ニ逾

卒<sub>ニ</sub>逾<sub>レ</sub>蹀<sub>行</sub>之<sub>ノ</sub>狂<sub>ヲ</sub>請<sub>フ</sub>子<sub>ヲ</sub>避<sub>ク</sub>緣<sub>ヲ</sub>攝<sub>情</sub>在<sub>レ</sub>心<sub>ヲ</sub>于<sub>ニ</sub>学<sub>ニ</sub>在<sub>レ</sub>静<sub>ニ</sub>豈<sub>ニ</sub>眠<sub>ラン</sub>出<sub>レ</sub>開<sub>レ</sub>豈<sub>ニ</sub>怠<sub>ラン</sub>不<sub>レ</sub>然<sub>ハ</sub>化<sub>レ</sub>後<sub>ニ</sub>優<sub>レ</sub>旃<sub>胡</sub>孫<sub>之</sub>異<sub>ヲ</sub>稱<sub>可</sub>數<sub>レ</sub>日<sub>ヲ</sub>待<sub>ツ</sub>賢<sub>龍</sub>子<sub>ノ</sub>莫<sub>レ</sub>言<sub>ハ</sub>性<sub>魯</sub>也<sub>故</sub>不<sub>レ</sub>能<sub>ス</sub>矣<sub>子</sub>向<sub>ニ</sub>讀<sub>ム</sub>毛<sub>詩</sub>序<sub>ヲ</sub>刻<sub>ニ</sub>定<sub>ス</sub>一<sub>夜</sub>晨<sub>ニ</sub>則<sub>レ</sub>詣<sub>ク</sub>之<sub>ヲ</sub>謂<sub>フ</sub>之<sub>ヲ</sub>何<sub>ト</sub>哉<sub>龍</sub>子<sub>曰</sub>我<sub>ハ</sub>敏<sub>ニ</sub>慢<sub>ニ</sub>衆<sub>人</sub>侮<sub>レ</sub>群<sub>弟</sub>我<sub>ハ</sub>不<sub>レ</sub>常<sub>ニ</sub>言<sub>ハ</sub>耶<sub>計</sub>見<sub>其</sub>下<sub>ニ</sub>莫<sub>レ</sub>見<sub>其</sub>上<sub>ニ</sub>才能<sub>見</sub>其<sub>上</sub>莫<sub>レ</sub>見<sub>其</sub>下<sub>ニ</sub>何<sub>ト</sub>則<sub>レ</sub>智<sub>若</sub>見<sub>下</sub>蟻<sub>子</sub>之<sub>智</sub>可<sub>レ</sub>欺<sub>ニ</sub>蝸<sub>牛</sub>鼯<sub>鼠</sub>之<sub>伎</sub>可<sub>レ</sub>笑<sub>ニ</sub>猪<sub>鹿</sub>豈<sub>ニ</sub>以<sub>レ</sub>蟻<sub>與</sub>鼯<sub>爲</sub>足<sub>耶</sub>子<sub>非</sub>黠<sub>慧</sub>癡<sub>之</sub>至<sub>也</sub>子<sub>向</sub>求<sub>号</sub>我<sub>命</sub>之<sub>曰</sub>淵<sub>潛</sub>蓋<sub>取</sub>手<sub>襲</sub>九<sub>淵</sub>之<sub>神</sub>龍<sub>勿</sub>淵<sub>潛</sub>以<sub>自</sub>珍<sub>也</sub>自<sub>珍</sub>者<sub>非</sub>曰<sub>自</sub>誇<sub>曰</sub>珍<sub>重</sub>保<sub>護</sub>而<sub>不</sub>漫<sub>發</sub>也<sub>我</sub>元<sub>知</sub>子<sub>之</sub>

卒<sub>ニ</sub>逾<sub>レ</sub>蹀<sub>行</sub>ノ<sub>ノ</sub>狂<sub>ヲ</sub>請<sub>フ</sub>子<sub>ヲ</sub>避<sub>ク</sub>緣<sub>ヲ</sub>攝<sub>情</sub>在<sub>レ</sub>心<sub>ヲ</sub>于<sub>ニ</sub>学<sub>ニ</sub>在<sub>レ</sub>静<sub>ニ</sub>豈<sub>ニ</sub>眠<sub>ラン</sub>出<sub>レ</sub>開<sub>レ</sub>豈<sub>ニ</sub>怠<sub>ラン</sub>不<sub>レ</sub>然<sub>ハ</sub>化<sub>レ</sub>後<sub>ニ</sub>優<sub>レ</sub>旃<sub>胡</sub>孫<sub>之</sub>異<sub>ヲ</sub>稱<sub>可</sub>數<sub>レ</sub>日<sub>ヲ</sub>待<sub>ツ</sub>賢<sub>龍</sub>子<sub>ノ</sub>莫<sub>レ</sub>言<sub>ハ</sub>性<sub>魯</sub>也<sub>故</sub>不<sub>レ</sub>能<sub>ス</sub>矣<sub>子</sub>向<sub>ニ</sub>讀<sub>ム</sub>毛<sub>詩</sub>序<sub>ヲ</sub>刻<sub>ニ</sub>定<sub>ス</sub>一<sub>夜</sub>晨<sub>ニ</sub>則<sub>レ</sub>詣<sub>ク</sub>之<sub>ヲ</sub>謂<sub>フ</sub>之<sub>ヲ</sub>何<sub>ト</sub>哉<sub>龍</sub>子<sub>曰</sub>我<sub>ハ</sub>敏<sub>ニ</sub>慢<sub>ニ</sub>衆<sub>人</sub>侮<sub>レ</sub>群<sub>弟</sub>我<sub>ハ</sub>不<sub>レ</sub>常<sub>ニ</sub>言<sub>ハ</sub>耶<sub>計</sub>見<sub>其</sub>下<sub>ニ</sub>莫<sub>レ</sub>見<sub>其</sub>上<sub>ニ</sub>才能<sub>見</sub>其<sub>上</sub>莫<sub>レ</sub>見<sub>其</sub>下<sub>ニ</sub>何<sub>ト</sub>則<sub>レ</sub>智<sub>若</sub>見<sub>下</sub>蟻<sub>子</sub>之<sub>智</sub>可<sub>レ</sub>欺<sub>ニ</sub>蝸<sub>牛</sub>鼯<sub>鼠</sub>之<sub>伎</sub>可<sub>レ</sub>笑<sub>ニ</sub>猪<sub>鹿</sub>豈<sub>ニ</sub>以<sub>レ</sub>蟻<sub>與</sub>鼯<sub>爲</sub>足<sub>耶</sub>子<sub>非</sub>黠<sub>慧</sub>癡<sub>之</sub>至<sub>也</sub>子<sub>向</sub>求<sub>号</sub>我<sub>命</sub>之<sub>曰</sub>淵<sub>潛</sub>蓋<sub>取</sub>手<sub>襲</sub>九<sub>淵</sub>之<sub>神</sub>龍<sub>勿</sub>淵<sub>潛</sub>以<sub>自</sub>珍<sub>也</sub>自<sub>珍</sub>者<sub>非</sub>曰<sub>自</sub>誇<sub>曰</sub>珍<sub>重</sub>保<sub>護</sub>而<sub>不</sub>漫<sub>發</sub>也<sub>我</sub>元<sub>知</sub>子<sub>之</sub>

慢<sub>心</sub>高<sub>大</sub>故<sub>抑</sub>其<sub>高</sub>心<sub>耳</sub>朝<sub>應</sub>子<sub>敏</sub>慧<sub>賢</sub>乎<sub>子</sub>賢<sub>意</sub>子<sub>勤</sub>勞<sub>力</sub>乎<sub>子</sub>常<sub>遍</sub>子<sub>鴻</sub>鵠<sub>也</sub>非<sub>可</sub>燕<sub>雀</sub>之<sub>同</sub>行<sub>也</sub>人<sub>皆</sub>識<sub>之</sub>子<sub>何</sub>陵<sub>乎</sub>況<sub>子</sub>貪<sub>欲</sub>溢<sub>心</sub>見<sub>羅</sub>衣<sub>繡</sub>裳<sub>意</sub>則<sub>不</sub>堪<sub>看</sub>子<sub>已</sub>後<sub>張</sub>高<sub>蓋</sub>從<sub>大</sub>奴<sub>眼</sub>如<sub>漆</sub>突<sub>口</sub>似<sub>區</sub>擔<sub>曰</sub>我<sub>有</sub>博<sub>才</sub>我<sub>有</sub>深<sub>智</sub>怒<sub>臂</sub>放<sub>言</sub>觸<sub>忤</sub>耆<sub>宿</sub>輕<sub>蔑</sub>流<sub>輩</sub>見<sub>憎</sub>惡<sub>時</sub>身<sub>遂</sub>被<sub>殃</sub>如<sub>是</sub>之<sub>者</sub>國<sub>家</sub>之<sub>賊</sub>佛<sub>法</sub>之<sub>敵</sub>永<sub>明</sub>曰<sub>生</sub>遭<sub>王</sub>法<sub>死</sub>隨<sub>阿</sub>鼻<sub>矣</sub>其<sub>則</sub>不<sub>遠</sub>悲<sub>哉</sub>我<sub>聞</sub>然<sub>明</sub>而<sub>卧</sub>佛<sub>之</sub>嚴<sub>制</sub>大<sub>經</sub>有<sub>之</sub>龍<sub>子</sub>褰<sub>子</sub>衣<sub>裳</sub>如<sub>涉</sub>漆<sub>洧</sub>露<sub>其</sub>髻<sub>骨</sub>跏<sub>坐</sub>地<sub>爐</sub>蓋<sub>欲</sub>煙<sub>氣</sub>遍<sub>體</sub>熟<sub>睡</sub>也<sub>始</sub>道<sub>誦</sub>書<sub>其</sub>聲<sub>唔</sub>伊<sub>少</sub>時<sub>則</sub>頭<sub>顫</sub>聲<sub>歇</sub>大<sub>然</sub>明<sub>燈</sub>

慢<sub>心</sub>高<sub>大</sub>故<sub>抑</sub>其<sub>高</sub>心<sub>耳</sub>朝<sub>應</sub>子<sub>敏</sub>慧<sub>賢</sub>乎<sub>子</sub>賢<sub>意</sub>子<sub>勤</sub>勞<sub>力</sub>乎<sub>子</sub>常<sub>遍</sub>子<sub>鴻</sub>鵠<sub>也</sub>非<sub>可</sub>燕<sub>雀</sub>之<sub>同</sub>行<sub>也</sub>人<sub>皆</sub>識<sub>之</sub>子<sub>何</sub>陵<sub>乎</sub>況<sub>子</sub>貪<sub>欲</sub>溢<sub>心</sub>見<sub>羅</sub>衣<sub>繡</sub>裳<sub>意</sub>則<sub>不</sub>堪<sub>看</sub>子<sub>已</sub>後<sub>張</sub>高<sub>蓋</sub>從<sub>大</sub>奴<sub>眼</sub>如<sub>漆</sub>突<sub>口</sub>似<sub>區</sub>擔<sub>曰</sub>我<sub>有</sub>博<sub>才</sub>我<sub>有</sub>深<sub>智</sub>怒<sub>臂</sub>放<sub>言</sub>觸<sub>忤</sub>耆<sub>宿</sub>輕<sub>蔑</sub>流<sub>輩</sub>見<sub>憎</sub>惡<sub>時</sub>身<sub>遂</sub>被<sub>殃</sub>如<sub>是</sub>之<sub>者</sub>國<sub>家</sub>之<sub>賊</sub>佛<sub>法</sub>之<sub>敵</sub>永<sub>明</sub>曰<sub>生</sub>遭<sub>王</sub>法<sub>死</sub>隨<sub>阿</sub>鼻<sub>矣</sub>其<sub>則</sub>不<sub>遠</sub>悲<sub>哉</sub>我<sub>聞</sub>然<sub>明</sub>而<sub>卧</sub>佛<sub>之</sub>嚴<sub>制</sub>大<sub>經</sub>有<sub>之</sub>龍<sub>子</sub>褰<sub>子</sub>衣<sub>裳</sub>如<sub>涉</sub>漆<sub>洧</sub>露<sub>其</sub>髻<sub>骨</sub>跏<sub>坐</sub>地<sub>爐</sub>蓋<sub>欲</sub>煙<sub>氣</sub>遍<sub>體</sub>熟<sub>睡</sub>也<sub>始</sub>道<sub>誦</sub>書<sub>其</sub>聲<sub>唔</sub>伊<sub>少</sub>時<sub>則</sub>頭<sub>顫</sub>聲<sub>歇</sub>大<sub>然</sub>明<sub>燈</sub>

凭案安眠傍人滅燈而去有時眠覺夢騰則發恚大罵言胡為相欺之甚耶我傾頭思文瞑眼尋句未嘗而睡出軒如雷其誰不知妄言之責誑惑之咎懈怠之罪負荆何道  
龍子之膽大姜維之斗不可企望與應子可得而頡頏故能欺我誣我我悲子之無知子喜我之不悟如何  
意子性魯也故我常勵之夫非夸父之足一步能跨百里哉戴星帶月日積旬累則雖千萬里而到然乃成功之最莫如于進不成之甚莫及于怠子怠之甚

力之緩其性魯且怠則如驢任千鈞向太行險何日到著  
意子疾病逼身則有藥餌有艾炷有砭針辦之有久不可言有一事之闕而學問不進學問不進皆子之罪也子之父母愍子是深託我以辭以賜我受而不辭教誨切也嚴師兩在亦復顧甚子戴其德昊天罔極護法神等加罰何暮夫狗子見其主搖尾而喜蓋知恩也子之無知下於狗子不是生而無知者不奈教言也  
韓文公曰人不通古今馬牛而襟裾我欲免此譏而

凭案安眠傍人滅燈而去有時眠覺夢騰則發恚大罵言胡為相欺之甚耶我傾頭思文瞑眼尋句未嘗而睡出軒如雷其誰不知妄言之責誑惑之咎懈怠之罪負荆何道  
龍子之膽大姜維之斗不可企望與應子可得而頡頏故能欺我誣我我悲子之無知子喜我之不悟如何  
意子性魯也故我常勵之夫非夸父之足一步能跨百里哉戴星帶月日積旬累則雖千萬里而到然乃成功之最莫如于進不成之甚莫及于怠子怠之甚

力之緩其性魯且怠則如驢任千鈞向太行險何日到著  
意子疾病逼身則有藥餌有艾炷有砭針辦之有久不可言有一事之闕而學問不進學問不進皆子之罪也子之父母愍子是深託我以辭以賜我受而不辭教誨切也嚴師兩在亦復顧甚子戴其德昊天罔極護法神等加罰何暮夫狗子見其主搖尾而喜蓋知恩也子之無知下於狗子不是生而無知者不奈教言也  
韓文公曰人不通古今馬牛而襟裾我欲免此譏而

還見欺豈當之耶

王右軍曰人惜寸陰我惜分陰我常提起而示子等夫一時半日之懈勸勿言少時人壽延促豈自由乎然則一時之景無魯陽之戈則不可招而還不可還則嗟臍不及深念

我問子等喫飯為飽習誦為遂子等喫了即吐不手我未見即吐何習誦不遂如何

子等不見當義珍身雖千鍾之粟万兩之金豈卒然換身于義不逃也子等恩義至深退步無地諒雖死不勤不厝也違恩乖義抑人面獸心耶

子等言飛沈異性宜隨所好不可彊乎我見恩義避無地罪報不可違故力而激身我性凡徒寢空過遊手而送日之容見如涕唾我不譽性利唯譽克勤不毀質鈍唯毀懈倦何則學問也者非飛入口非人之贈非一朝而成倘夫口性利空過猶如工匠我妙手心巧故不力為饑羞盡笑絃歌稱意極於歡娛財彈食空遭凍餒之苦則稍悟前非逝水不駐任事難追徒大息耳雖言鋸斧不利乎又不熟日備夜作不怠不止無饑寒患雖鈍而勤終有成巧於子奈何子等莫道復無餘暇故已諳復失我使子等咩則

還見欺豈當之耶

王右軍曰人惜寸陰我惜分陰我常提起而示子等夫一時半日之懈勸勿言少時人壽延促豈自由乎然則一時之景無魯陽之戈則不可招而還不可還則嗟臍不及深念

我問子等喫飯為飽習誦為遂子等喫了即吐不手我未見即吐何習誦不遂如何

子等不見當義珍身雖千鍾之粟万兩之金豈卒然換身于義不逃也子等恩義至深退步無地諒雖死不勤不厝也違恩乖義抑人面獸心耶

子等言飛沈異性宜隨所好不可彊乎我見恩義避無地罪報不可違故力而激身我性凡徒寢空過遊手而送日之者見如涕唾我不譽性利唯譽克勤不毀質鈍唯毀懈倦何則學問也者非飛入口非人之贈非一朝而成倘夫口性利空過猶如工匠我妙手心巧故不力為饑羞盡笑絃歌稱意極於歡娛財彈食空遭凍餒之苦則稍悟前非逝水不駐任事難追徒大息耳雖言鋸斧不利乎又不熟日備夜作不怠不止無饑寒患雖鈍而勤終有成巧於子奈何子等莫道復無餘暇故已諳復失我使子等咩則

子等言飛沈異性宜隨所好不可彊乎我見恩義避無地罪報不可違故力而激身我性凡徒寢空過遊手而送日之者見如涕唾我不譽性利唯譽克勤不毀質鈍唯毀懈倦何則學問也者非飛入口非人之贈非一朝而成倘夫口性利空過猶如工匠我妙手心巧故不力為饑羞盡笑絃歌稱意極於歡娛財彈食空遭凍餒之苦則稍悟前非逝水不駐任事難追徒大息耳雖言鋸斧不利乎又不熟日備夜作不怠不止無饑寒患雖鈍而勤終有成巧於子奈何子等莫道復無餘暇故已諳復失我使子等咩則

再聲則曰一即二日秘三日蓋使不失也如猶不足耶如何

右件件事非空縷縷欲一有益耳是皆大者備責其過毫充硯潤且復楮國無餘地故省不說昔

述懷

寬文己酉春二月丙子焉求山人書  
獨向韶光淚不禁上頭白雪日相侵思懷石上藤蘿  
月徹照九衢塵裏心

酬和友人見寄

底綠案上氣津々落紙雲烟勢絕倫金韻有如黃鳥

嗚殷勤喚起懶眠人

阿闍黎光海影贊代弟子僧作

先師諱海法器其闕仁而且智勳德匿在伯牙已去  
陽春巨賚小子薄命愧彼滿籬

但州美合郡竹野鄉荆木山緣起

夫禽鳥集林薄吾見其枝稠葉密宜于棲宿也魚龍  
藏沼淵吾見其水深波靜宜于游泳也禪客字徒輻  
湊蘭若吾識其遠離憤閑都絕緣務使于讀經修禪  
也故大悲經云阿蘭若者離諸忽務故又云十二頭  
佛言阿蘭若處十方諸佛皆共讚歎無量功德皆由

再聲ハ則曰一ニタヒシ即ハ一日ニシハ三日ニセ蓋使レラントナリ不失セ也如クシテモ是猶不ルカ  
レ足ラ耶如何

右件件ノ事非ニ空ク縷縷一欲ニ一ツモ有ニシコトヲ益耳是皆大ナル者ナリ備サニ責メハ其ノ  
過ヲ毫充レ硯潤レシ且復楮國無シ余ノ地一故ニ省シテ不レ説カトキ  
寬文己酉ノ春二月丙子ヲ焉求山人書

述懷

獨向韶光淚不レ禁上頭白雪日ニ相侵ス思フ懷ニ石上藤蘿ノ  
月一徹ニ照レ九衢塵裏ノ心一

酬和友人ノ見寄

底綠案上氣津々落紙ニ雲烟勢ヒ絶倫金韻有レ如ニナルコト黄鳥ノ

嗚一ルカ 殷勤喚ヒ起ス懶眠ノ人

阿闍黎光海ノ影贊代弟子僧ニ作

先師諱ハ海法器其闕ト仁一而且智ナリ勳德ニ匿在ニ伯牙已ニ去テ  
陽春巨レ賚ニ小子薄命愧ニ彼滿籬ニ

但州美合郡竹野鄉荆木山緣起

夫禽鳥集ル林薄ニ吾レ見ニ其枝稠ク葉密ニシテ宣ニ于棲宿ニ也魚龍  
藏ニ沼淵ニ吾レ見ニ其水深ク波靜ニシテ宣ニ于游泳ニ也禪客字徒輻  
湊ニ蘭若ニ吾レ識ニ其遠離憤閑ニ都絶ニ緣務ニ使中リアルコトヲ于読經修禪上  
也故ニ大悲經ニ云阿蘭若ト者離ニ諸ノ忽務一故ニ又云十二頭  
佛言阿蘭若處ハ十方ノ諸佛皆共ニ讚歎シ無量ノ功德皆由テ

此生又云經雲阿蘭若處獨靜無人不為惱亂多訪  
林木華果清淨美水龍室安隱故是故振古以降仰  
覺求道之人勤策修練之士尋名山訪勝境上福庭  
宅靈崛林下經行悟四相之變遷石上安坐觀群動  
之幻影席間函丈以審容膝之易安衣帶纒三而知  
蔽體之惟足茲乃聆鐘響而醒昏尋香馥以滌蒙朝  
視尊儀暮披寶軸磨識鏡之久垢垢恐情塵之暫墮門  
前擾々巷裏云々吉凶不聞榮辱不關安住不動如二  
須弥山皆是阿蘭若處之所致也至如彼蒼閣崛頂  
淨照機宜補陀巖上聖垂玄應三世大雄所共來集

千古群黎攸同仰瞻良有以哉但州美舍之縣竹野  
之鄉有山曰荆木圓通大士嘗斯降靈郡國緇白無  
紊無倪凡有所禱必趨歸信莫不傾心竭膽文武皇  
帝御駕之日有大比丘法諱行基迹聆大士之德音  
崇仰玄聖之化儀飛錫而來卓錫而止閱其勝狀山  
圍三面眾峯競走接漢連霞海吞半州群流爭投躍  
魚騰龍喬林蔽日則夏青冬綠幽泉澗壑則春清秋  
冷騷人可以激口禪客可以歡眸畎畝列布翁媪抃  
躍稻梁之告登原野廣衍芻蕘謳歌草木之漸苞是  
荆木之勝概寔山陰之壯觀也宜乎大士之垂應於

レ此生又云經雲阿蘭若處獨靜無人不為二惱亂多訪  
林木華果清淨美水龍室安隱ノ故是ノ故振古以降仰  
覺求道ノ之人勤策修練ノ之士尋名山訪勝境上福庭  
宅靈崛林下經行悟四相之變遷石上安坐觀群動  
之幻影席間函丈似審容膝之易安衣帶纒三而知  
蔽體之惟足茲乃聆鐘響而醒昏尋香馥以滌蒙朝  
觀尊儀暮披寶軸磨識鏡之久垢垢恐情塵之暫墮門  
前擾々巷裏云々吉凶不聞榮辱不關安住不動如二  
須弥山ノ皆是阿蘭若處ノ之所致也至如彼蒼閣崛頂  
淨照機宜補陀巖上聖垂玄應三世大雄所共來集

千古ノ群黎ノ攸同ノ仰瞻ノ良有以哉但州美舍之縣竹野  
之鄉有山曰荆木圓通大士嘗斯降靈郡國緇白無  
紊無倪凡有所禱必趨歸信莫不傾心竭膽文武皇  
帝御駕之日有大比丘法諱行基迹聆大士之德音  
崇仰玄聖之化儀飛錫而來卓錫而止閱其勝狀山  
圍三面眾峯競走接漢連霞海吞半州群流爭投躍  
魚騰龍喬林蔽日則夏青冬綠幽泉澗壑則春清秋  
冷騷人可以激口禪客可以歡眸畎畝列布翁媪抃  
躍稻梁之告登原野廣衍芻蕘謳歌草木之漸苞是  
荆木之勝概寔山陰之壯觀也宜乎大士之垂應於

茲嶺矣既而締構殿堂肖像於土木營建寺院眞衆于間虛層軒引景邃宇臨崖左瞻右眺前眺後顧莫不仁智所託是故義龍展名翼而雲萃智虎翹行足以雲合當弘仁之際空海大師竭來數回頂禮歸敬請八幡廟靈為護教法之將奉熊野山神為鎮伽藍之主像教因之弥興密宗自斯始燁碩才名緇接迹繼踵朝講暮解煥赫宗乘幼長壯艾斗瞻山仰一念一唱一偈一句其應其益匪啻且千武臣垣屋氏奕世歸德傾庫搜棄追其遺軌幻出樓閣崢嶸輪囷且建一、大宰堵波雕飾遍照遮那尊像為彼士庶殖其

福田又捨膏腴備香燈供粥飯僧侶獲安居之地苦行得寄寓之處有普門教院住持有清一不遠千里來而責記于予拒辭再三其責逾重不言我顏之云厚三熏而言曰夫實際理地一塵不立法界都會万象森然雖然如是一翳起於如鏡千想迷于真心改頭換面蟻旋諸趣非大雄猛氏之示生迦維城唱覺寂滅場照燭大千洞見豪髮適緣稱宣廣濟普施愛河欲海豈易出哉古佛也賢聖也輔其化者于在世于入滅不為不多就中觀音大士負忍土能化之任數々出現數々應同百共十一愛愍稱名之士女怖懼

茲嶺矣既而締構殿堂肖像於土木營建寺院眞衆于間虛層軒引景邃宇臨崖左瞻右眺前眺後顧莫不仁智所託是故義龍展名翼而雲萃智虎翹行足以雲合當弘仁之際空海大師竭來數回頂禮歸敬請八幡廟靈為護教法之將奉熊野山神為鎮伽藍之主像教因之弥興密宗自斯始燁碩才名緇接迹繼踵朝講暮解煥赫宗乘幼長壯艾斗瞻山仰一念一唱一偈一句其應其益匪啻且千武臣垣屋氏奕世歸德傾庫搜棄追其遺軌幻出樓閣崢嶸輪囷且建一、大宰堵波雕飾遍照遮那尊像為彼士庶殖其

福田又捨膏腴備香燈供粥飯僧侶獲安居之地苦行得寄寓之處有普門教院住持有清一不遠千里來而責記于予拒辭再三其責逾重不言我顏之云厚三熏而言曰夫實際理地一塵不立法界都會万象森然雖然如是如一翳起於如鏡千想迷于真心改頭換面蟻旋諸趣非大雄猛氏之示生迦維城唱覺寂滅場照燭大千洞見豪髮適緣稱宣廣濟普施愛河欲海豈易出哉古佛也賢聖也輔其化者于在世于入滅不為不多就中觀音大士負忍土能化之任數々出現數々應同百共十一愛愍稱名之士女怖懼

構難之魔鬼凡厥含生莫不蒙益何其大哉何其普哉降迹靈岫亦聖之常南溟易地則然況地間寂有利練修敢告來者以勸以導希冀求道之人勉勵勤業以光曩蹟我不妄言勿懷疑念寬文己酉春三月上巳日鼎峯焉求道人書

過去帳序

自從我大覺慈父示生迎維城唱覺寂滅場妙合根宜曲成佛事說法導生凡五十年其間或人天乘道或聲聞乘道或聲覺乘道或摩訶衍道建立施設幾多乎哉都盧無非使六趣含靈三界有識轉迷向悟

息妄歸真之教也于茲有方便是則記先亡久喪之姓名于簿書每至某月某日以所修之淨行廻施彼之冥福也夫雖佛示獅吼祖輝象教至若夷蠻戎狄之種嬰孩耄期之人未易自習自行自離自脫於如此類者此小簿豈空設乎於斯而書  
弘法大師影贊  
航海不辭艱苦卒歸舟楫載舍那真到今滿眼密林  
蠹更向何攸重問津  
又  
潛形晦迹入苔苔八百餘年似死灰  
兒童所觀唯此是無邊神用挽何回

構難之魔鬼凡厥含生莫不蒙益何其大哉何其普哉降迹靈岫亦聖之常南溟易地則然況地間寂有利練修敢告來者以勸以導希冀求道之人勉勵勤業以光曩蹟我不妄言勿懷疑念寬文己酉春三月上巳日鼎峯焉求道人書

過去帳序

自從我大覺慈父示生迎維城唱覺寂滅場妙合根宜曲成佛事說法導生凡五十年其間或人天乘道或聲聞乘道或聲覺乘道或摩訶衍道建立施設幾多乎哉都盧無非使六趣含靈三界有識轉迷向悟

息妄歸真之教也于茲有方便是則記先亡久喪之姓名于簿書每至某月某日以所修之淨行廻施彼之冥福也夫雖佛示獅吼祖輝象教至若夷蠻戎狄之種嬰孩耄期之人未易自習自行自離自脫於如此類者此小簿豈空設乎於斯而書  
弘法大師影贊  
航海不辭艱苦卒歸舟楫載舍那真到今滿眼密林  
蠹更向何攸重問津  
又  
潛形晦迹入苔苔八百餘年似死灰  
兒童所觀唯此是無邊神用挽何回

贈泉濱寄傲庵主

午風驅暑淨籬餘  
市隱元來絕毀譽  
禪坐有餘時  
說向南牕寄傲事何如

題扇

夾林窳堵相輪高  
齋粥常嘗沿泚毛  
多少漁舟看不見  
水煙埋却幾離騷

與賴周大德書

晚生雲農昧死百拜呈上  
慈兄大德望賴周教授師  
祝在卽辰膏發逼肌  
嚴寒徹骨恭審  
足下天資穎  
活俊偉超倫見識  
眇遠聲譽隆盛  
天神翊扶動止清

贈泉濱寄傲庵主

午風驅暑淨籬餘  
市隱元來絕毀譽  
禪坐有餘時  
說向南牕寄傲事何如

題扇

夾林窳堵相輪高  
齋粥常嘗沿泚毛  
多少漁舟看  
不見  
水煙埋却幾離騷

與賴周大德書

晚生雲農昧死百拜呈上  
慈兄大德望賴周教授師  
祝在卽辰膏發逼肌  
嚴寒徹骨恭審  
足下天資穎  
活俊偉超倫見識  
眇遠聲譽隆盛  
天神翊扶動止清

泰兌悅殊深區區萍梗不足容受  
報汗滿顏耳頰  
人來告周丈人罪子非子何不負荆速趨以謝  
過咎拙百省其身未有所見良以孤陋賤質井蛙小見  
無因謹慎罪當彌天唯是頑魯不克自揣自革耳今  
方暴露寸丹說之千希足下不慳獅吼為辨之  
不敢乖違鈞旨矣聞足下罪言往載嚴師朝  
通闡黎附我以賢龍囑渠以賢意蓋欲各有所領強  
力教誨使成就其業也然渠偷命冒令侵奪龍子而  
教授之豈當其理耶曩日遍闡黎以龍意二子分囑  
足下與拙而命之曰此是所以我之欲生育之而觀

泰兌悅殊深區區萍梗不足容受  
報汗滿顏耳頰  
人來告周丈人罪子非子何不負荆速趨以謝  
過咎拙百省其身未有所見良以孤陋賤質井蛙小見  
無因謹慎罪當彌天唯是頑魯不克自揣自革耳今  
方暴露寸丹說之千希足下不慳獅吼為辨之  
不敢乖違鈞旨矣聞足下罪言往載嚴師朝  
通闡黎附我以賢龍囑渠以賢意蓋欲各有所領強  
力教誨使成就其業也然渠偷命冒令侵奪龍子而  
教授之豈當其理耶曩日遍闡黎以龍意二子分囑  
足下與拙而命之曰此是所以我之欲生育之而觀

其學行共成聲流一天譽溢四海者你等其無有  
懈勸示之誨之使之長立矣拙素飲師德不敢辭  
之于卯于申激勵勸導無時而怠然足下雅倦教  
授或時他出或曰無暇厭患過常以故龍子投拙素  
授受十則六七遍閣黎憤恚忽然而語人曰聞周子  
太倦教授我嘗詰難夫周子非生而知之者必其東  
問西求知之者也然何為厭誨兒輩求匿穴于無暇  
他出而遁逃耶若曰我不曉得何不學于人而後傳  
之若夫剛棄捐之曰我不敢為則我復障周子之所  
從而教豈夫宜乎而丁授諸於意子之時足下謂

拙曰我不曉夫詩也者子其併授二子足下若然  
嚴師之言胡不學于人却傳授之而今還罪拙曰渠  
性嗜授受幼童故奪而扶持沾沾自喜足下何病  
健忘之甚耶又是蹂自所履之糞而謂何許人向路  
頭放此穢之屬也請服遠志菖蒲而可也足下又  
罪拙曰直饒渠奪而自喜若欲其進于學則我不然  
也渠之所為一無益于學無利于行或癡言叱呵或  
杖笞打撻一是妬心之所為也非如毫釐欲成學肅  
行我不忍見故今自扶持也拙性雖怯弱頗耐授受  
知恩之所致也晨夜教誨動彼退步於是恐其未足

其ノ學行共ニ成テ聲流ニ一天ニ譽溢中コトヲナリ也你等其無レ有コト  
懈勸ニ示之誨之使ニメト之長立ニ矣拙素飲師德ニ故不敢辭レ  
之ヲ卯ニ于申ニ激勵勸導無ニ時而怠然ルヲ足下雅倦ニ教  
授ニ或時他ハ出或曰無暇厭患スルコト過常ニ以テ故龍子投シテ拙素  
授受ヲ十ヲヒニ六七遍閣黎憤恚忽然而語人ニ曰聞ケリ周子  
太倦ニト教授我嘗詰難夫周子非生而知レル者上ニ必ス其東ニ  
問ヒ西ニ求メテ知レル之者ノナリ然ルヲ何為厭誨ニ兒輩ニ求メテ匿穴ヲ于無キ暇  
他ニ出テ遁逃耶若シ曰ハハ我不ト曉得何ソノ不學于人ニ而シテ後ニ傳  
之若夫剛棄捐シテ之曰ハハ我不敢為一則我復障ヘン周子之所  
從而教フ豈夫宜乎而丁下授ニ爾詩於意子ニ之時上ニ足下謂レ

拙曰我不曉夫詩也者子其併授二子足下若然  
嚴師之言胡不學于人却傳授之而今還罪拙曰渠  
性嗜授受幼童故奪而扶持沾沾自喜足下何病  
健忘之甚耶又是蹂自所履之糞而謂何許人向路  
頭放此穢之屬也請服遠志菖蒲而可也足下又  
罪拙曰直饒渠奪而自喜若欲其進于學則我不然  
也渠之所為一無益于學無利于行或癡言叱呵或  
杖笞打撻一是妬心之所為也非如毫釐欲成學肅  
行我不忍見故今自扶持也拙性雖怯弱頗耐授受  
知恩之所致也晨夜教誨動彼退步於是恐其未足

乃屬文責應龍意之三子之懈學荒行之過用意親切立言刻深嚴師覽之嘆曰噫嘻何為如是切于勸勉復無比之者兒輩太被毀訶亦大辱也遭此不屑之譴猶尚不進棄而止矣也已我褒賞之則賜抽朱提三十兩且命之曰應龍意之三子則託于你自今已後逾力示諭就中龍子性最恨戾不惠教誘辱論激勵不可則任行答罰假使損壞支體我不恨也若夫一霄化龍興慈雲致法雨普澍率土之焦種是我素願也切戒勿怠告戒丁寧故拙教誨授受彌力是為況又拙之於龍子貪惜嫉妬之心涓塵無在罵之

乃屬文責下必龍意之三子カ之懈學荒行ニ之過ヲ用レコト意親切立レコト言ラ深嚴師覽シテ之嘆曰噫嘻何為如是切ナル于勸勉ニ復無クニ比之者兒輩太被フル毀訶一亦大ナル辱也遭レ此ノ不屑之譴ニ猶尚不レ進マ棄、而止シナン矣也已我褒賞シテ之則賜フ抽朱提三十兩一且命シテ之曰應龍意之三子ハ則託ス于你ニ自今已後逾力メテ示諭セ就テ中ニ龍子ハ性最モ恨戾不レ惠ハ教誘ニ慰諭シ激勵不レ可則任行ニ答罰ヲ假使損壞シ支體ニ我不レ恨也若シ夫一霄化シテ龍ト興ニ慈雲ニ致シテ法雨ニ普澍シ率土ノ之焦種ニ是我素願ナリ也切レ戒勿レ怠告戒丁寧故ニ拙教誨授受彌力メテ是為況又拙カ之於龍子ニ貪惜嫉妬之心涓塵無レ在罵リ之

答之黜之則懲渠性戾而懈之故也是好而知其惡之謂耳夫媼者重禁也經說佛在世時有二比丘其根極輕又長其一比丘以根入於自口而白佛言是犯媼不佛言然又一比丘以根入自糞門而白佛言是又犯不佛言然又經曰男犯男者墮眾合別處多苦惱處中謂見彼男子一切身分皆悉熱炎來抱其身一切身分皆悉解散死已復活無量時間受大苦惱大日經云非道二身交會是犯媼也猶不可心中起貪況作其事矣生身法身所誠如斯拙思彼嚴誠思彼惡報無不悻惶豈不欲離之耶唯恨無始時來

答之黜之則懲ニカカ渠性戾ニシテ懈レルヲ之故ハ也是好ニ知レ其ノ惡ニ之謂耳夫媼ハ者重禁也經ニ說カク佛在世時有二ノ比丘一其ノ根極輕又長其一ノ比丘以レ根入レテ於自ノ口ニ而白レテ佛ニ言サク是レ犯媼不佛言然又一ノ比丘以レ根入レテ自ノ糞門ニ而白レテ佛ニ言サク是又犯不佛言然又經ニ曰男ノ犯男者ハ墮ス眾合ノ別處多ク苦惱處ノ中謂ク見レハ彼ノ男子ヲ一切ノ身分皆悉熱炎來抱シ其身一切ノ身分皆悉解散死ニテ復活無量時間受大苦惱大日經ニ云非道ニ二身交會スル是レ犯媼也猶不レ可ニ心中起スレ貪況ヤ作ニ其事ヲ矣生身法身ノ所誠如レ斯拙思フニ彼嚴誠ニ思フニ彼惡報無シ不レ悻惶豈ニ不レランヤ離レシコトヲ之耶唯恨ラクハ無始ノ時ヨリ來テ

熏染陶習不克遽改欲境近前警介犯重無因噬臍  
叩首自鄙故先以不潔者為之願豈違生芥介悞  
惜塵許嫉妬耶而足下責抽曰龍子嚴師往昔見  
囑我渠不能關況渠所為一不當理皆悉妬心之所  
為也足下平日有言我高明也幽識也廉直也餘  
人不及又曰我不如彼瑣瑣兒輩漫談妄施行必顧  
一言言必顧行矣如足下之所罪必見青天白日事  
定不浪言請與足下對三地大聖兩所靈神之前  
相共濺血同等成說若有違犯冥必加罰足下  
定能之耶此二事足下所告意子者矣夫意子者

熏染陶習不克遽改欲境近前警介ニ犯重無因噬臍  
叩首自鄙故先以不潔者為之願豈違生芥介悞  
惜塵許嫉妬耶而足下責抽曰龍子嚴師往昔見  
囑我渠不能關況渠所為一不當理皆悉妬心之所  
為也足下平日有言我高明也幽識也廉直也餘  
人不及又曰我不如彼瑣瑣兒輩漫談妄施行必顧  
一言言必顧行矣如足下之所罪必見青天白日事  
定不浪言請與足下對三地大聖兩所靈神之前  
相共濺血同等成說若有違犯冥必加罰足下  
定能之耶此二事足下所告意子者矣夫意子者

抽之所殊青願故凡有異事無不聞抽足下亦能  
識之惟足下所以告意子者是告於抽也抽豈默  
止之又聞足下結黨引羣相與罪抽曰夫蕩逸房  
事人之常也而今天下所有群黎何無此事然渠責  
龍子之荒淫此事擯之且又限以五稔慎勿入房是  
甚不可也這事獨已說龍子雖然為足下下重說之  
夫佛制酒因醉生過也人有大小戶或一盞泥  
醉或數斗自若雖然如此未聞為仇數斗之人開而  
不遮抽禁龍子之專強亦然若言時犯則許之假使  
不制亦足強禁固遏使其度而少若俞抽之戒言永

抽之所殊青願故凡有異事無不聞抽足下亦能  
識之惟足下所以告意子者是告於抽也抽豈默  
止之又聞足下結黨引羣相與罪抽曰夫蕩逸房  
事人之常也而今天下所有群黎何無此事然渠責  
龍子之荒淫此事擯之且又限以五稔慎勿入房是  
甚不可也這事獨已說龍子雖然為足下下重說之  
夫佛制酒因醉生過也人有大小戶或一盞泥  
醉或數斗自若雖然如此未聞為仇數斗之人開而  
不遮抽禁龍子之專強亦然若言時犯則許之假使  
不制亦足強禁固遏使其度而少若俞抽之戒言永

斷其事、豈復不善乎、足下不揣、拙之心、曲轍、爾罪、拙  
何太輕脫、耶謂之、慥慥爾乎、我抑又姪之、為過患、  
如上說、足下何故、歎舞之、雪上加霜、屋上架屋、耶  
況龍子自知、房事以來、日添困倦、彌忘學問、故不  
忍見、強加制禁、是欲渠之業之遂也、足下何深罪耶  
又聞龍子謂、足下曰、言詰之太難、乞見宥、怒、足  
下諾、許不使之詰、當初嚴師、聞應子之、不肖對、拙而  
嘆之曰、應子也、者我之門弟也、無大無小、須從我意、  
我也、欲渠之誦之、所以者何、世人幼之、則曰、誦經也、  
通書也、及其長也、則闕焉、無聲茫乎、無迹不誦、不復

斷ハ其ノ事ヲ、豈復不善乎、足下不<sup>ハ</sup>揣<sup>ニ</sup>拙<sup>カ</sup>ノ心<sup>ヲ</sup>、曲<sup>ク</sup>轍<sup>ヲ</sup>、爾<sup>ノ</sup>罪<sup>ヲ</sup>、拙  
何太輕脫、耶謂<sup>フ</sup>之、慥<sup>ニ</sup>慥<sup>ニ</sup>爾<sup>ノ</sup>乎、我抑又姪<sup>ク</sup>之、為<sup>ル</sup>過患、  
如上<sup>ニ</sup>說<sup>ク</sup>、足下何故、歎<sup>キ</sup>舞<sup>フ</sup>之、雪<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>加<sup>ヘ</sup>霜<sup>ヲ</sup>、屋<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>架<sup>ヘ</sup>屋<sup>ヲ</sup>、耶  
況龍子自知、房事以來、日添困倦、彌忘學問、故不  
忍見、強<sup>ク</sup>加<sup>ヘ</sup>制禁<sup>ヲ</sup>、是欲渠<sup>ノ</sup>之業<sup>ノ</sup>之遂也、足下何深<sup>ク</sup>罪<sup>ム</sup>耶  
又聞龍子謂、足下曰、言詰<sup>ク</sup>之太難、乞見宥、怒、足  
下諾、許不<sup>レ</sup>使<sup>フ</sup>之詰、當初嚴師、聞應子<sup>ノ</sup>之、不肖對、拙而  
嘆<sup>シ</sup>之曰、應子也、者我之門弟也、無<sup>レ</sup>大<sup>ト</sup>無<sup>レ</sup>小<sup>ト</sup>、須從我意、  
我也、欲渠<sup>ノ</sup>之誦<sup>ム</sup>之、所以者何、世人幼<sup>ク</sup>之、則曰、誦經<sup>ヲ</sup>也、  
通書<sup>ヲ</sup>也、及其長也、則闕<sup>ク</sup>焉、無聲茫乎、無迹不誦、不復

之所致也、二三子詰之、我尚恐其不復、後失、若不誦  
不復、則畫脂鏤冰、之謂而已、豈得觀其成乎、流涕潛  
焉、拙聞斯言、亦復墜淚、拙不肖、不措、不勤、不可、足  
下非常、不使之詰、却大贊揚、而曰、吁、我知子之孜孜  
于讀也、難處能下、如泉之流、夫龍子舌柔、韻正、字又  
多、讀經七八遍、即使似通、何頻稱、耶況又龍子往年  
誦詩序、冠定一夜、晨則通之、豈曰、詰之難、是則渠性  
甚好、懈惰、長傲、遂非、足下復能解之、而枉叨稱譽、豈  
是勸勉、耶還是培其慢怠、耳泥裏、洗土塊、有其益、耶  
誠可笑矣、凡足下脅肩諂笑、求其群、巧言令色、連

之<sup>レ</sup>所<sup>レ</sup>致<sup>ス</sup>也、二三子詰<sup>ク</sup>之、我尚恐<sup>ム</sup>其不復、後失<sup>フ</sup>、若不誦  
不復、則畫<sup>ク</sup>脂<sup>ヲ</sup>鏤<sup>ク</sup>冰<sup>ヲ</sup>、之<sup>レ</sup>謂<sup>フ</sup>而已、豈得觀<sup>ル</sup>其成<sup>ヲ</sup>乎、流涕潛  
焉、拙聞斯言、亦復墜<sup>ク</sup>淚<sup>ヲ</sup>、拙不肖、不措<sup>ク</sup>、不勤<sup>ク</sup>、不可<sup>ク</sup>、足  
下非常、不<sup>レ</sup>使<sup>フ</sup>之詰、却大贊揚、而曰、吁、我知<sup>ル</sup>子之孜孜  
于讀也、難處能下、如<sup>ク</sup>泉<sup>ノ</sup>之流、夫龍子舌柔、韻正、字又  
多、讀<sup>ム</sup>經七八遍、即使似通、何頻稱、耶況又龍子往年  
誦<sup>ム</sup>詩序、冠定一夜、晨則通<sup>ク</sup>之、豈曰、詰<sup>ク</sup>之難、是則渠性  
甚好、懈惰、長傲、遂非、足下復能解<sup>ク</sup>之、而枉叨稱譽、豈  
是勸勉、耶還是培<sup>ク</sup>其慢怠、耳泥裏、洗<sup>ク</sup>土塊、有其益、耶  
誠可笑矣、凡足下脅肩諂笑、求<sup>ク</sup>其群、巧言令色、連

其、友、競、責、拙、之、過、咎、一、埤、益、我、拙、竊、比、于、毒、請、足、  
下、勿、匿、胎、昭、之、白、過、強、罪、亦、拙、足、下、之、罪、拙、猶、如、仰、  
天、而、唾、聞、仰、而、唾、者、必、黷、其、面、又、如、大、明、之、中、衆、  
邑、繁、然、有、人、自、掩、其、眼、而、言、無、山、河、無、艸、木、無、屋、舍、  
傍、有、開、目、者、聞、即、胡、盧、足、下、黨、姦、銅、邪、孽、肌、分、理、  
彈、射、拙、非、而、拙、之、罪、一、無、實、于、斯、猶、如、彼、大、明、中、衆、  
邑、森、羅、惟、族、足、下、者、不、為、不、少、自、外、或、有、不、掩、眼、  
之、者、能、悟、無、山、河、草、木、之、謾、欺、矣、縱、使、絕、無、之、兩、部、  
三、寶、必、不、比、之、定、照、見、之、抑、令、拙、之、所、說、雖、一、非、吐、  
虛、頭、若、否、則、五、大、忿、怒、十、二、大、天、必、罰、至、禱、至、禱、雖、

其ノ友ヲ競責ニ拙之過咎ヲ一ニ埤益我拙竊比于毒ニ請足  
下勿匿胎昭之白過強罪亦拙足下之罪拙猶如仰  
天而唾聞仰而唾者必黷其面又如下大明之中衆  
邑繁然有入人自掩其眼而言無山河無艸木無屋舍  
傍有開目者聞即胡盧足下黨姦銅邪孽肌分理  
彈射拙非而拙之罪一無實于斯猶如彼大明中衆  
邑森羅惟族足下者不為不少自外或有不掩眼  
之者能悟無山河草木之謾欺矣縱使絶無之兩部  
三宝必不比之定照見之抑令拙之所說雖一非吐  
虛頭若否則五大忿怒十二大天必罰至禱至禱雖

然、如、此、是、更、非、趣、狗、逼、牆、惟、拙、庸、愚、無、辨、迷、惑、不、識、  
向、來、所、說、定、不、應、理、切、希、鉤、慈、勿、外、疎、放、為、細、論、  
拙、臨、書、不、勝、惶、恐、和、南、不、宣、  
楮、國、有、餘、地、故、追、啓、如、上、件、々、事、非、不、欲、向、整、惟、恐、  
若、或、論、爭、臧、否、必、互、厲、聲、然、則、為、怨、讐、之、基、猶、如、下、  
于、掌、故、倩、毛、先、生、媒、之、非、是、失、敬、丙、昭、  
冬、十、一、月、日、

然如レ此此是更ニ非ニ趣テ狗逼レテ牆ニ惟拙庸愚ニシテ無クク辨ニ迷惑シメ不識  
向來ノ所說ヲ定不レ應レ理切ニ希クハ 鉤慈勿外ニ疎放ヲ為メ細ニ論セヨ  
拙ニ臨書ニ不レ勝テ惶恐ニ和南不宣  
楮國有ニ餘地故追啓ス如上件々ノ事非不レ欲ニ面整ニ惟恐クハ  
若シ或レ論争臧否ニ必互厲聲ニ然則為ニ怨讐之基ニ猶如レ下ニ  
于掌故倩毛先生ニ媒之非是失敬ニ丙昭  
冬十一月日

天野奥澤燈籠銘  
於赫神靈 耀信輝誠 乞威免厄 募緣合明 焚膏繼晷

天野奥沢灯籠銘  
於赫 神靈 耀信輝誠 乞威免厄 募緣合明 焚膏繼晷

鐫石代繁，冀施餘照，濟彼天氓。

寬文十庚戌年 行年三十二

庚戌元旦

街巷曉來喧紛紛，逐境奔和風，侵板戶，喜氣溢華門。  
屢頓二毛首，苦歸兩足尊，節回道彌廢，流水不還源。

述懷二首

勢利榮名隨處陳，眼中未有不羈人，何時快翥垂天翼，陵得長空九万塵。

鐫石代繁ニ 冀クハ施ニテ余照一ヲ 濟ニハ彼ノ天氓一ヲ

寬文十庚戌年 行年三十二

庚戌元旦

街巷曉來喧シ 紛々トシテ逐境ヲ奔ル 和風侵ニ板戸一ヲ 喜氣溢ル華門ニ  
屢頓ニ二毛首一ヲ 苦ニ歸ニ兩足尊ニ 節回道彌廢ル 流水不レ還レラ源ニ

述懷二首

勢利榮名隨レテ陳ス 眼中未レ有ニ不羈ノ人一 何時快カク翥ニテ垂天ノ翼一ヲ 陵ニキキ得レ長空九万ノ塵一ヲ

滿目春光已十分，覆翻雲雨正紛紛，詩書拋却遨遊客，花柳眩目懶論文。

聖寶尊師影贊

幼岐長嶷甚靈物，頭角觚稜天一方，分水南池澗焦種，其流万世尚汪々。

補陀洛山祇園寺緣起

蓋聞素月之散輝也，若夫勺許有水，無不斯現，金仙之利物也，若夫毫端有緣，無不斯應，因茲清涼臺上，妙德童真之迹，不休不吐，炭頭觀自在者之德，維馨世泰，邦安，蠡似有截之樂，知誘物化卓，此大士之力。

滿目ノ春光已ニ十分 覆翻雲雨正ニ紛紛 詩書拋却ス遨遊ノ客 花柳眩目シ懶ニ論文ヲ

聖寶尊師ノ影贊

幼岐長嶷甚ニ靈物 頭角觚稜 天ノ一方 分水南池ニ澗焦種ニ 其ノ流万世尚汪々

補陀洛山祇園寺緣起

蓋聞素月ノ散輝也 若夫ノ勺ノ許ノ有レハ水無レハ不ト云コト 斯ニ現ニ金仙ノ利物也 若夫ノ毫端ノ有レハ緣無レハ不ト云コト 斯ニ應ニ茲ニ清涼臺上ニハ妙德童真ノ迹 不休不吐 炭頭觀自在者ノ德 維馨 世泰 邦安 蠡似有截ノ樂 知誘物化卓 此ノ大士ノ力

備之中州常房郡巨瀨莊有山曰補陀洛迦蓋是忍  
界導引之主阿里耶嚩路吉帝濕伐羅之所遊化也  
聞諸先志曰孝靈天皇撫運之日降靈於斯大古混  
茫典籍無載未究其實惟相傳耳其為勢也傑拔國  
中根盤周圍殆數十里重巒聳峙攢峯竦峻巖複  
沓壁立万仞懸瀑氾々滴珠璀璨如貫如綴乍噴乍  
湧奇檜怪松蒼翠一洗春蘭兮秋佳芬發越焉登臨  
四眺精神飛揚遐邇眾峯如布墀阜似聯培塿天長  
際空海和尚經行之次觀林壑之絕勝感尊者之靈  
應掛錫憩息縛茅棲遲奉牛頭天王作鎮於山又神

祠之前鑿開方池漣漪滄漭渾沕澄深當中之渚築  
於小壇置妙音天女之祠住此修禱凡歷年所至今  
異之麗去之里許有隻跡在鉅磐上是海和上遺  
蹤也爾後有善乎工安阿弥陀仏剋雕千眼大悲像  
一軀長七尺許并三十二應身像各一軀不施粉朱不填  
漆泥惟素是從慈顏笑頰怒貌獐氣殊體詭制形容  
誠巧莫能及之復有阿遮邏尊多聞天王各一軀或  
皆裂而牙現或骨露而跋扈威神嚴毅衆之所敬又  
以可憐波旬退障者傳道行基大僧正親自肖之也  
當時住持比丘某構重閣以奠安其形軀架傑棟而

備之中州常房郡巨瀨莊有山曰補陀洛迦蓋是忍  
界導引之主阿里耶嚩路吉帝濕伐羅之所遊化也  
聞諸先志曰孝靈天皇撫運之日降靈於斯大古混  
茫典籍無載未究其實惟相傳耳其為勢也傑拔國  
中根盤周圍殆數十里重巒聳峙攢峯竦峻巖複  
沓壁立万仞懸瀑氾々滴珠璀璨如貫如綴乍噴乍  
湧奇檜怪松蒼翠一洗春蘭兮秋佳芬發越焉登臨  
四眺精神飛揚遐邇眾峯如布墀阜似聯培塿天長  
際空海和尚經行之次觀林壑之絕勝感尊者之靈  
應掛錫憩息縛茅棲遲奉牛頭天王作鎮於山又神

祠之前鑿開方池漣漪滄漭渾沕澄深當中之渚築  
於小壇置妙音天女之祠住此修禱凡歷年所至今  
異之麗去之里許有隻跡在鉅磐上是海和上遺  
蹤也爾後有善乎工安阿弥陀仏剋雕千眼大悲像  
一軀長七尺許并三十二應身像各一軀不施粉朱不填  
漆泥惟素是從慈顏笑頰怒貌獐氣殊體詭制形容  
誠巧莫能及之復有阿遮邏尊多聞天王各一軀或  
皆裂而牙現或骨露而跋扈威神嚴毅衆之所敬又  
以可憐波旬退障者傳道行基大僧正親自肖之也  
當時住持比丘某構重閣以奠安其形軀架傑棟而

庇蔭其徒衆復於東山巔穿於巨沼擬乎大神遨遊  
之攸俗曰天王馬厥後漸成鉅刹寶坊紺宇櫛  
聯來學襟逕接踵累蹠碩德名望連翩胥嗣龜  
計僧以百筭宰官刺吏傾信而助法幢竭貲而創梵  
閣之首寔其發矣雖然此世改俗變廢之興之三  
四于今延文二年寺僧榮覺資僧隆全之勳乃修天  
像尊佛殿天文乙卯住侶增有完尊軀之支離補椽  
栒之差脫至豐臣秀吉之提劍八區方命是齊不惠  
是懲檢山川考土田盡縣賦稅以故齋田粥邑僉遭  
劫掠雕甍散之惟風甌之語宵繡闥壞之時月弓之

庇蔭其徒衆復於東山巔穿於巨沼擬乎大神遨遊  
之攸俗曰天王馬厥後漸成鉅刹寶坊紺宇櫛  
聯來學襟逕接踵累蹠碩德名望連翩胥嗣龜  
計僧以百筭宰官刺吏傾信而助法幢竭貲而創梵  
閣之者寔其夥矣雖然此世改俗變廢之興之三  
四于今延文二年寺僧榮覺資僧隆全之勳乃修天  
像尊佛殿天文乙卯住侶增有完尊軀之支離補椽  
栒之差脫至豐臣秀吉之提劍八區方命是膺不惠  
是懲檢山川考土田盡縣賦稅以故齋田粥邑僉遭  
劫掠雕甍散之惟風甌之語宵繡闥壞之時月弓之

射隙序累載積在苒就廢嗚呼時運不齊足于拊膺  
大息武臣水谷氏勢州使君藤原勝隆公淹聽開士  
之德音常慕靈神之玄感遂則比覺而飭治破甍選  
材而補苴頽扉已捐財而莊飾僧坊輪奐如新又課  
工以蓋戴祠宇崇麗復舊也令嗣左京兆勝宗公慕  
復投貨加益曩蹟張皇幽渺煥乎炳乎丹墀鉅砌之  
狀徹線淨也聖之獲之朱闥瓊壁之奪却赫日也前  
住苾芻空賢與其法嗣宥賢不艱千里來而素予之  
記其事蹟志確不拔無地避之則三炷而言曰夫密  
巖樓閣不外自心華藏刹海唯是在目為夫群眠之

射隙序累載積在苒就廢嗚呼時運不齊足于拊膺  
大息武臣水谷氏勢州使君藤原勝隆公淹聽開士  
之德音常慕靈神之玄感遂則比覺而飭治破甍選  
材而補苴頽扉已捐財而莊飾僧坊輪奐如新又課  
工以蓋戴祠宇崇麗復舊也令嗣左京兆勝宗公慕  
復投貨加益曩蹟張皇幽渺煥乎炳乎丹墀鉅砌之  
狀徹線淨也聖之獲之朱闥瓊壁之奪却赫日也前  
住苾芻空賢與其法嗣宥賢不艱千里來而素予之  
記其事蹟志確不拔無地避之則三炷而言曰夫密  
巖樓閣不外自心華藏刹海唯是在目為夫群眠之

惑亂天眞衆翳之眩瞽妙道固執不遷蕩逸無返病  
旋輕則謂世間之相有成有壞離世間法是如是常  
而法界都會不離不即兩俱失之海岸孤絕之處峭  
嶒巖澗之嶺與此岑樓反宇之構并餘麗譙之華豈  
其他哉孰曰之非然則牆壁圯墉覆苦亂墜亦其之  
常運斤成風輪奐眩耀亦其之如雖然能適物情之  
者不動狂迷而建真覺哀斯墮廢欣斯鬱興固亦宜  
矣若夫法綫一斷無鸞膠之復續則心中密嚴眼裏  
華藏詎能曉悟實是法資人弘人待法昇佛道導之  
王法弼之使法輪重轉海徼之表慧日再輝要荒之

惑亂天眞衆翳之眩瞽妙道固執不遷蕩逸無返病  
旋輕則謂世間之相有成有壞離世間法是如是常  
而法界都會不離不即兩俱失之夫海岸孤絕之處峭  
嶒巖澗之嶺與此岑樓反宇之構并餘麗譙之華豈  
其他哉孰曰之非然則牆壁圯墉覆苦亂墜亦其之  
常運斤成風輪奐眩耀亦其之如雖然能適物情之  
者不動狂迷而建真覺哀斯墮廢欣斯鬱興固亦宜  
矣若夫法綫一斷無鸞膠之復續則心中密嚴眼裏  
華藏詎能曉悟實是法資人弘人待法昇佛道導之  
王法弼之使法輪重轉海徼之表慧日再輝要荒之

邊不啻閭里之榮亦是邦家之光耳寬文第十林鐘  
二十有七寓紀陽南嶽汗道沙門澹然拜書

高祖大師影贊

無奈瞿塘灑瀨險奔入脂難擅聚今識功勞遂不  
空紫微宮裏金容儼

頭陀寺鐘銘并序

頭陀寺在遠之州城東青林山中寺是興福圓空律  
師之所肇建佛則東大行基僧正之攸手製也皇朝  
世崇數賜郡懸之膏股檀越歲力頻脩院宇之頽廢  
寬文十稔之秋千手院住持比丘宥昌慨寸莛之久

辺不啻閭里之榮亦是邦家之光耳寬文第十林鐘  
二十有七寓紀陽南嶽汗道沙門澹然拜書

高祖大師影贊

無奈瞿塘灑瀨險奔入脂難擅聚今識功勞遂不  
空紫微宮裏金容儼

頭陀寺鐘銘并序

頭陀寺在遠之州城東青林山中寺是興福圓空律  
師之所肇建佛則東大行基僧正之攸手製也皇朝  
世崇數賜郡懸之膏股檀越歲力頻脩院宇之頽廢  
寬文十稔之秋千手院住持比丘宥昌慨寸莛之久

絶響扣洪鐘之新出鑪則走黃耳切告丹心固請之銘猥騁以筆銘曰

遠之城左長川惟濤原陸墳衍蔚然青林其一梵宮有血髻曰頭陀金地軼埃寶樹交柯其二醫王肖像基師巧彫纒唱禪歸殃錫福招其三輪燈救孽神幡續命辟鬼消邪百病九橫其四創基者誰其名ハ円空力荷密乘維羅維熊其五神光入夢見祥感瑞解虎錫動降龍鉢苾苾其六金容徒溟汎汎其景取而奉之詣闕以請其七澤洽黔黎介其寶壽帝命綸出工萃夫湊其八十斯福庭幻成天堂丹腹輝觀紅碧眩望

其九宣揚大教導誘生物慈雲鬢鬢辯泉湧沸其十成壞行藏惟運而然兵燹荐掃覽者涕漣其十一豐臣龍興虎視宇內非玉非帛爰有大賚其十二隆起紺殿琉璃映徹長夜未艾明燭晰晰其三十三寺之比丘各相謂言無明醉酣何回夢魂其十四或為韶舞鼉鼓逢警之悟之莫若洪鐘其十五募緣求壇咨詠島氏亦金入鑪鏤刻實美其十六龍虛高懸獅吼雷殷天壤共達遐邇同聞其十七妙音妙趣即事即真庶幾茲道億劫不泯其十八

絶響扣洪鐘之新出鑪則走黃耳切告丹心固請之銘猥騁以筆銘曰

遠之城左長川惟濤原陸墳衍蔚然青林其一梵宮有血髻曰頭陀金地軼埃寶樹交柯其二醫王肖像基師巧彫纒唱禪歸殃錫福招其三輪燈救孽神幡續命辟鬼消邪百病九橫其四創基者誰其名ハ円空力荷密乘維羅維熊其五神光入夢見祥感瑞解虎錫動降龍鉢苾苾其六金容徒溟汎汎其景取而奉之詣闕以請其七澤洽黔黎介其寶壽帝命綸出工萃夫湊其八十斯福庭幻成天堂丹腹輝觀紅碧眩望

其九宣揚大教導誘生物慈雲鬢鬢辯泉湧沸其十成壞行藏惟運所然兵燹荐掃覽者涕漣其十一豐臣龍興虎視宇內非玉非帛爰有大賚其十二隆起紺殿琉璃映徹長夜未艾明燭晰晰其三十三寺之比丘各相謂言無明醉酣何回夢魂其十四或為韶舞鼉鼓逢警之悟之莫若洪鐘其十五募緣求壇咨詠島氏亦金入鑪鏤刻實美其十六龍虛高懸獅吼雷殷天壤共達遐邇同聞其十七妙音妙趣即事即真庶幾茲道億劫不泯其十八

寬文十一年辛亥年 行年三十三

攝之大坂興德寺千手堂募緣疏

吾大師薄伽梵毗盧遮那教敕金剛手等曰汝等將來無量世界為最上乘者現生令得世出世間悉地成就此故於彼所說中如教修行一切所求莫不如意是乃勃駄益物三世不休索多利生十方普及之所致也就中千手大士出万德圓滿之祕宮赴大悲深重之度門廻於千光眼之眸鑒眾生趣之根為廿五有之迷徒現四十手之妙相所謂如意珠手為求種々珍寶資生之具寶鉢手為腹中眾病金剛杵

手為摧破怨敵日精摩尼手為患眼病之者蒲萄手為菓碩穀稼成熟寶弓手為求官職之者青蓮花手為求往生淨土之人寶鏡手為求大智慧金輪手為菩提心常不退轉等如是各應其所須現隨類形莫不滿其求願矣况復念其陀羅尼者免離猛獸毒蛇惡鬼怨賊蠱毒等害解脫熱病毒腫難產咒咀禁閉等難速得福祿隨意長生不老斷惑證果等益彼經具說不克縷述也當寺有千手大悲身像俗流日倍盡敬雖言靈德維馨佛閣歲累未造有似威神式微某甲營構之念彌切土木之料猶少因茲乞微財於

寬文十一年辛亥年 行年三十三

撰之大坂興德寺千手堂募緣疏

吾大師薄伽梵毗盧遮那教敕金剛手等曰汝等將來於無量世界為最上乘者現生令得世出世間悉地成就此故於彼所說中如教修行一切所求莫不如意是乃勃駄益物三世不休索多利生十方普及之所致也就中千手大士出万德圓滿之祕宮赴大悲深重之度門廻於千光眼之眸鑒眾生趣之根為廿五有之迷徒現四十手之妙相所謂如意珠手為求種々珍寶資生之具寶鉢手為腹中眾病金剛杵

手為摧破怨敵日精摩尼手為患眼病之者蒲萄手為菓碩穀稼成熟寶弓手為求官職之者青蓮花手為求往生淨土之人寶鏡手為求大智慧金輪手為菩提心常不退轉等如是各應其所須現隨類形莫不滿其求願矣况復念其陀羅尼者免離猛獸毒蛇惡鬼怨賊蠱毒等害解脫熱病毒腫難產咒咀禁閉等難速得福祿隨意長生不老斷惑證果等益彼經具說不克縷述也當寺有千手大悲身像俗流日倍盡敬雖言靈德維馨佛閣歲累未造有似威神式微某甲營構之念彌切土木之料猶少因茲乞微財於

尊卑、求少施、于緇素、仰願、同心、勦力、落成寶殿、某甲  
不任渴願、謹疏、

請於內州石川郡本不見山圓通寺鑄一鉅鐘  
警悟長眠、群類、免脫、無明、大夜、募緣、疏

內州石川郡有幽邃之岨、聞諸耆舊曰、斯山一夜之  
間、歛尔湧起、人奇之、往視、峯連八葉、自備蓮臺、於地  
勢、壁累千仞、如假藻畫于天工、杯薄之際、金剛藏王  
菩薩威容儼然、慧光暉赫、名此山本、未見曰、本不見  
山也、自其已降都人士、女繼踵、尊重禮敬、碩才名緇  
累、蹤淹留練行、四方來集、漸成巨刹、殿堂門廡嚴飾

日新武將楠氏奕世執信、投贊資助、自明德應仁之  
兵寇至、天正文祿之逆浪、天下苦騷擾、久矣、以故檀  
越闕供、齋粥斷饌、禪侶無住、堂閣闕焉、寬文四載、有  
智園法師、慨朝梵夕誦之、絕聽剪夷、荒榛縛、龕居之  
名曰圓通寺、某甲尋禪寂之佳勝、繼住斯寺、燕居之  
暇、數々持念上奉答、國恩下饒蒼生、福嘗有聞曰  
寸莛一撞、則大千之衆雲合、巨鯨三振、則六趣之苦  
雲消、是故叱王劍輪之報、因之得免、獄卒鑊湯之患  
以之得離、山毫三密于茲、影響地墨、四身於是、輻湊  
伏念此巧德、欲鑄一大鐘、撞破群眠、雖然、貧道清匱

尊卑、求少施、于緇素、仰願、同心、勦力、落成寶殿、某甲  
不任渴願、謹疏、

請於內州石川郡本不見山圓通寺鑄一鉅鐘  
警悟長眠、群類、免脫、無明、大夜、募緣、疏

內州石川郡有幽邃之岨、聞諸耆舊曰、斯山一夜之  
間、歛尔湧起、人奇之、往視、峯連八葉、自備蓮臺、於地  
勢、壁累千仞、如假藻畫于天工、杯薄之際、金剛藏王  
菩薩威容儼然、慧光暉赫、名此山本、未見曰、本不見  
山也、自其已降都人士、女繼踵、尊重禮敬、碩才名緇  
累、蹤淹留練行、四方來集、漸成巨刹、殿堂門廡嚴飾

日新武將楠氏奕世執信、投贊資助、自明德應仁之  
兵寇至、天正文祿之逆浪、天下苦騷擾、久矣、以故檀  
越闕供、齋粥斷饌、禪侶無住、堂閣闕焉、寬文四載、有  
智園法師、慨朝梵夕誦之、絕聽剪夷、荒榛縛、龕居之  
名曰圓通寺、某甲尋禪寂之佳勝、繼住斯寺、燕居之  
暇、數々持念上奉答、國恩下饒蒼生、福嘗有聞曰  
寸莛一撞、則大千之衆雲合、巨鯨三振、則六趣之苦  
雲消、是故叱王劍輪之報、因之得免、獄卒鑊湯之患  
以之得離、山毫三密于茲、影響地墨、四身於是、輻湊  
伏念此巧德、欲鑄一大鐘、撞破群眠、雖然、貧道清匱

無力切希<sup>ハ</sup>十方<sup>ノ</sup>縑素共<sup>ニ</sup>勦<sup>ス</sup>其力<sup>ヲ</sup>施<sup>シ</sup>涓塵<sup>ノ</sup>財<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>任<sup>ニ</sup>志願<sup>ヲ</sup>  
之至<sup>ニ</sup>謹<sup>ニ</sup>疏<sup>ス</sup>

和玄益隱士見寄

夷語華言今始<sup>テ</sup>通<sup>ス</sup>含弘<sup>ニ</sup>憑<sup>ル</sup>似<sup>シ</sup>大虛空<sup>ニ</sup>從來<sup>ニ</sup>葵藿<sup>ニ</sup>隨<sup>フ</sup>陽<sup>景</sup>  
景<sup>一</sup>一片<sup>ニ</sup>暮雲<sup>日</sup>自<sup>レ</sup>東<sup>東</sup>

其二

胸襟<sup>ノ</sup>壅滯<sup>覺</sup>旋<sup>ニ</sup>通<sup>ル</sup>洗却<sup>シ</sup>十年<sup>ノ</sup>塵事<sup>空</sup>綠底<sup>ニ</sup>高談<sup>得</sup>如<sup>如</sup>  
許灑然<sup>行</sup>履任<sup>ニ</sup>西東<sup>二</sup>

又

喜逢<sup>方</sup>外交遊<sup>子</sup>自有<sup>蕭</sup>條<sup>林</sup>下<sup>風</sup>愧<sup>我</sup>紛<sup>紜</sup>情<sup>不</sup>

盡而今<sup>措</sup>筆<sup>尚</sup>仲々

酬玄益隱士見寄<sup>予</sup>兄<sup>兄</sup>

飛鴻去<sup>後</sup>絕<sup>音</sup>信<sup>風</sup>雪無<sup>端</sup>滿<sup>我</sup>裙<sup>賴</sup>有<sup>陽</sup>春<sup>揚</sup>雅<sup>雅</sup>  
曲<sup>一</sup>十分<sup>鬱</sup>悒<sup>五</sup>分<sup>舒</sup>

和州葛上郡千光山慈眼寺之記

和之葛上郡傍<sup>葛</sup>木<sup>之</sup>巽<sup>偏</sup>有<sup>二</sup>勝<sup>岬</sup>名曰<sup>高</sup>宮<sup>其</sup>  
為<sup>狀</sup>也冠<sup>名山</sup>帶<sup>大</sup>川<sup>四</sup>明<sup>非</sup>外<sup>五</sup>嶽<sup>焉</sup>求<sup>旭</sup>日出<sup>テ</sup>  
地<sup>先</sup>照<sup>先</sup>明<sup>瑞</sup>露<sup>降</sup>砌<sup>乍</sup>點<sup>乍</sup>釀<sup>何</sup>更<sup>駕</sup>鶴<sup>坐</sup>銅<sup>銅</sup>  
天<sup>不</sup>須<sup>乘</sup>查<sup>看</sup>入<sup>雲</sup>漢<sup>厓</sup>陰<sup>虛</sup>豁<sup>衆</sup>仙<sup>之</sup>所<sup>隱</sup>處<sup>地</sup>  
勢<sup>爽</sup>壇<sup>群</sup>哲<sup>之</sup>所<sup>寄</sup>託<sup>金</sup>峯<sup>迥</sup>接<sup>桜</sup>花<sup>吐</sup>彌<sup>旬</sup>之<sup>霞</sup>

無<sup>レ</sup>力<sup>切</sup>希<sup>ハ</sup>十<sup>方</sup>ノ<sup>縑</sup>素<sup>共</sup>ニ<sup>勦</sup>其<sup>力</sup>ヲ<sup>施</sup>シ<sup>涓</sup>塵<sup>ノ</sup>財<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>任<sup>ニ</sup>志<sup>願</sup>  
之<sup>至</sup>ニ<sup>謹</sup>疏<sup>ス</sup>

和玄益隱士見寄

夷語華言今始<sup>テ</sup>通<sup>ス</sup>含弘<sup>ニ</sup>憑<sup>ル</sup>似<sup>シ</sup>大虛空<sup>ニ</sup>從來<sup>ニ</sup>葵藿<sup>ニ</sup>隨<sup>フ</sup>陽<sup>景</sup>  
景<sup>一</sup>一片<sup>ニ</sup>暮雲<sup>日</sup>自<sup>レ</sup>東<sup>東</sup>

其二

胸襟<sup>ノ</sup>壅滯<sup>覺</sup>旋<sup>ニ</sup>通<sup>ル</sup>洗却<sup>シ</sup>十年<sup>ノ</sup>塵事<sup>空</sup>綠底<sup>ニ</sup>高談<sup>得</sup>如<sup>如</sup>  
許<sup>ノ</sup>灑然<sup>タル</sup>行履任<sup>ニ</sup>西東<sup>二</sup>

又

喜逢<sup>方</sup>外交遊<sup>子</sup>自有<sup>蕭</sup>條<sup>林</sup>下<sup>風</sup>愧<sup>我</sup>紛<sup>紜</sup>情<sup>不</sup>

盡<sup>レ</sup>今<sup>サ</sup>而<sup>今</sup>措<sup>サ</sup>筆<sup>尚</sup>仲々

酬玄益隱士見寄<sup>予</sup>兄<sup>兄</sup>

飛鴻去<sup>後</sup>絕<sup>音</sup>信<sup>風</sup>雪無<sup>端</sup>滿<sup>我</sup>裙<sup>賴</sup>有<sup>陽</sup>春<sup>揚</sup>雅<sup>雅</sup>  
曲<sup>一</sup>十分<sup>鬱</sup>悒<sup>五</sup>分<sup>舒</sup>

和州葛上郡千光山慈眼寺之記

和之葛上郡傍<sup>葛</sup>木<sup>之</sup>巽<sup>偏</sup>有<sup>二</sup>勝<sup>岬</sup>名曰<sup>高</sup>宮<sup>其</sup>  
為<sup>レ</sup>狀<sup>也</sup>冠<sup>名山</sup>帶<sup>大</sup>川<sup>四</sup>明<sup>非</sup>外<sup>五</sup>嶽<sup>焉</sup>求<sup>マン</sup>旭<sup>日出</sup>テ<sup>テ</sup>  
地<sup>先</sup>照<sup>先</sup>明<sup>瑞</sup>露<sup>降</sup>砌<sup>ニ</sup>乍<sup>點</sup>乍<sup>釀</sup>何<sup>更</sup>駕<sup>鶴</sup>坐<sup>銅</sup>銅<sup>銅</sup>  
天<sup>不</sup>須<sup>乘</sup>查<sup>看</sup>入<sup>雲</sup>漢<sup>厓</sup>陰<sup>虛</sup>豁<sup>衆</sup>仙<sup>之</sup>所<sup>隱</sup>處<sup>地</sup>  
勢<sup>爽</sup>壇<sup>群</sup>哲<sup>之</sup>所<sup>寄</sup>託<sup>金</sup>峯<sup>迥</sup>接<sup>桜</sup>花<sup>吐</sup>彌<sup>旬</sup>之<sup>霞</sup>

鐵甕高構樹杪衝半空之雲金鷄晨於巔屹屢驚宴  
坐之睡石榻基千萃律豫備若行之資時花散林競  
曼荼曼殊之彩春草鋪野恣那囉那哩之戲岡巒戟  
列伐木之響時答田疇基布擊壤之歌或聞幽鳥囀  
雲雅樂滿耳蟠龍感雨膏澤悅意吾邦之異勝雖多  
未育出此右之者殊恨佛教流塞易時寺像興廢隨  
運且又舊籍湮滅無所可考聞于蒼年曰昔聖武之  
朝天平之際大僧正行基巡歷畿甸徑營寺院四十  
九所此寺亦預其列草創已來碩德尊宿施化不少  
顯宗密乘傳燈甚熾子院以百數学徒以千數王臣

施膏腴退通傾財產雖今時及澆末世又濁濫亂離  
數回兵燹荐侵壇場多為狐兔之棲止基址半交民  
屋之垣墻今僅存之者千眼大士之閣耳初寺之比  
丘某素練瑜伽純歸大悲精選奇材使善於工安阿  
弥之者造之刻雕窮妙儀形逼真修觀之際或見異  
瑞縹白仰德來投如市徒眾胥議徒而奉於大殿於  
於是山始名千光寺改曰慈眼良以大士於過去無  
量億劫蒙千光王如來為說大悲心陀羅尼以金色  
手摩其頂上慇懃告教即作誓言我若當來堪能利  
安樂一切眾生者令我即時身生千手千眼具足發

鐵甕高構樹杪衝半空之雲金鷄晨於巔屹屢驚宴  
坐之睡石榻基千萃律豫備若行之資時花散林競  
曼荼曼殊之彩春草鋪野恣那囉那哩之戲岡巒戟  
列伐木之響時答田疇基布擊壤之歌或聞幽鳥囀  
雲雅樂滿耳蟠龍感雨膏澤悅意吾邦之異勝雖多  
未育出此右之者殊恨佛教流塞易時寺像興廢隨  
運且又舊籍湮滅無所可考聞于蒼年曰昔聖武之  
朝天平之際大僧正行基巡歷畿甸徑營寺院四十  
九所此寺亦預其列草創已來碩德尊宿施化不少  
顯宗密乘傳燈甚熾子院以百數学徒以千數王臣

施膏腴退通傾財產雖今時及澆末世又濁濫亂離  
數回兵燹荐侵壇場多為狐兔之棲止基址半交民  
屋之垣墻今僅存之者千眼大士之閣耳初寺之比  
丘某素練瑜伽純歸大悲精選奇材使善於工安阿  
弥之者造之刻雕窮妙儀形逼真修觀之際或見異  
瑞縹白仰德來投如市徒眾胥議徒而奉於大殿於  
於是山始名千光寺改曰慈眼良以大士於過去無  
量億劫蒙千光王如來為說大悲心陀羅尼以金色  
手摩其頂上慇懃告教即作誓言我若當來堪能利  
安樂一切眾生者令我即時身生千手千眼具足發

是願已應時。身上千手千眼悉皆具足。十方大地六種震動。十方諸佛悉放光明。照觸其身。從是已後。阿僧祇劫。歷事諸佛。於無盡無餘一切衆生界。大慈之眼。觀察諸趣之苦惱。大悲之手。拔出三有之淪溺。千光之名。慈眼之稱。吾知其不虛設也。永正戊辰。有篤信之士。聞大仙之諸語。經起廢塔寺補壞經像功德過於新之百十萬倍也修妙臂之損墜。威容復舊。神驗重新。弟子熟惟大哉。開士往昔之悲願。普乎菩薩現今之利益。若不使繫念持呪之衆生。不墮惡道。苦難之中。受生之處。常於佛國。辯才無量。自在說法。一切所求必得。如願狀。女

身者轉得男形。一切罪障不藉懺悔。悉皆消滅。若我不取正覺之者。夙世之弘願也。為珍財充足。以如意珠手為腹中諸病。以寶鉢手為求安隱。以羅索手為身上種種病。以揚柳枝手降伏魔衆鬼神。以跋折羅及寶劍摧滅怨敵逆賊。以金剛杵及戟稍為求官職。以寶弓手為除障難。以白拂手為成就功德。往生淨土。以白蓮青蓮手為往生天宮。面見諸佛。以紅蓮紫蓮手為開發伏藏。以寶篋手為言辭巧妙。以寶印手為成熟穀稼。及諸果蔬。以蒲萄手為一切有情恭敬。愛念。以合掌手為多聞廣學。以寶經手為驅使鬼神。

是願已應時。身上千手千眼悉皆具足。十方大地六種震動。十方諸佛悉放光明。照觸其身。從是已後。阿僧祇劫。歷事諸佛。於無盡無餘一切衆生界。大慈之眼。觀察諸趣之苦惱。大悲之手。拔出三有之淪溺。千光之名。慈眼之稱。吾知其不虛設也。永正戊辰。有篤信之士。聞大仙之諸語。經起廢塔寺補壞經像功德過於新之百十萬倍也修妙臂之損墜。威容復舊。神驗重新。弟子熟惟大哉。開士往昔之悲願。普乎菩薩現今之利益。若不使繫念持呪之衆生。不墮惡道。苦難之中。受生之處。常於佛國。辯才無量。自在說法。一切所求必得。如願狀。女

身者轉得男形。一切罪障不藉懺悔。悉皆消滅。若我不取正覺之者。夙世之弘願也。為珍財充足。以如意珠手為腹中諸病。以寶鉢手為求安隱。以羅索手為身上種種病。以揚柳枝手降伏魔衆鬼神。以跋折羅及寶劍摧滅怨敵逆賊。以金剛杵及戟稍為求官職。以寶弓手為除障難。以白拂手為成就功德。往生淨土。以白蓮青蓮手為往生天宮。面見諸佛。以紅蓮紫蓮手為開發伏藏。以寶篋手為言辭巧妙。以寶印手為成熟穀稼。及諸果蔬。以蒲萄手為一切有情恭敬。愛念。以合掌手為多聞廣學。以寶經手為驅使鬼神。

以髑髏手為十方諸佛速來授手以數珠手為大菩提心常不退轉以金輪手等現生之鉅益也況又掃四海之災厄與百穀之豐登消滅疾疫之難除遣呪詛之神凡其福利無量無邊今取少分不能具說

寬文十二己亥年 行年三十四

過去靈簿題辭

我大師薄伽梵以無漏清淨佛眼觀見六道四生一切有情鈴辦生死郵亭匱乏菩提資糧福慧併少禪

戒若亡於是理不得已不捨之檀洽施沙界應物之權還覃恒利大哉其設化也百億契經八万法藏無量方便無不得而盡之者矣雖然如是大薄命重垢之受生於邊鄙感報于無暇生而不能遭之遭而不克趣之何其難耶于茲有一入門所謂記先亡久滅之姓名於簿書每至某月迎某日以諷經持呪等之白善而廻施某之靈魂也吁導無告之大善巧手哉寔惟万有森羅無出花藏世界千名錯峙盡包密嚴國土派別味同之所致器異月一之所施也亦何怪耶於是乎書

以髑髏手為十方諸佛速來授手以數珠手為大菩提心常不退轉以金輪手等現生之鉅益也況又掃四海之災厄與百穀之豐登消滅疾疫之難除遣呪詛之神凡其福利無量無邊今取少分不能具說

寬文十二己亥年 行年三十四

過去靈簿題辭

我大師薄伽梵以無漏清淨佛眼觀見六道四生一切有情鈴辦生死郵亭匱乏菩提資糧福慧併少禪

戒若亡於是理不得已不捨之檀洽施沙界應物之權還覃恒利大哉其設化也百億契經八万法藏無量方便無不得而盡之者矣雖然如是大薄命重垢之受生於邊鄙感報于無暇生而不能遭之遭而不克趣之何其難耶于茲有一入門所謂記先亡久滅之姓名於簿書每至某月迎某日以諷經持呪等之白善而廻施某之靈魂也吁導無告之大善巧乎哉寔惟万有森羅無出花藏世界千名錯峙盡包密嚴國土派別味同之所致器異月一之所施也亦何怪耶於是乎書

聖寶尊師影贊

泰山頭角露稜々、這箇天姿真可微通界毗盧塵撲面、繼明曾祖的傳燈。

酬和井上松齋丈人烹茗粥見召

連日愁霖徒待晴、無窮羈思坐來生、忽聞見擬風雲會、清話希教俗耳驚。

佛齒之記

奉納 菩提山寺地藏大菩薩宝前

佛齒舍利壹粒

伏惟舍利者是本地法身之馱都堅固不壞之身骨

聖玉尊師影贊

泰山頭角露稜々、這箇天姿真可微通界毗盧塵撲面、繼明曾祖的傳燈。

酬和井上松齋丈人烹茗粥見召

連日愁霖徒待晴、無窮羈思坐來生、忽聞見擬風雲會、清話希教俗耳驚。

佛齒之記

奉納 菩提山寺地藏大菩薩宝前

佛齒舍利壹粒

伏惟舍利者是本地法身之馱都堅固不壞之身骨

也一瞻一禮曠劫之業突忽消纔持纔念無邊之苦海速竭是故起月氏漸日域蒼生無不冥被彼益傳支那流扶桑黔首多見顯受其澤所謂息事業歸真性三昧常寂之樂遠窮來際分一體成多身普門示現之利周施塵刹馱都之祕義舍利之巨益邈哉大哉和州中川寺寶範上人者緇林之挺生密門之棟梁也遍扣諸師各臻闔奧入徹覺室益闡祕藏擔簦負笈備嘗求法之辛酸餌蔬衣羅久積仰覺之勤勞至誠所感偶得佛齒歡喜拮躩莫知所措因而奉禮持念盡壽自尔已來殆數百載神靈奇異不減當時

也一瞻一禮曠劫之業突忽消纔持纔念無邊之苦海速竭是故起月氏漸日域蒼生無不冥被彼益傳支那流扶桑黔首多見顯受其澤所謂息事業歸真性三昧常寂之樂遠窮來際分一體成多身普門示現之利周施塵刹馱都之祕義舍利之巨益邈哉大哉和州中川寺實範上人者緇林之挺生密門之棟梁也遍扣諸師各臻闔奧入徹覺室益闡祕藏擔簦負笈備嘗求法之辛酸餌蔬衣羅久積仰覺之勤勞至誠所感偶得佛齒歡喜拮躩莫知所措因而奉禮持念盡壽自尔已來殆數百載神靈奇異不減當時

多聞院主某傳而持之。室翫仰崇焉。而今予之采地。接彼寺境。故與某僧結盟。過常於是。懇請切求。遂得如願。豈非幸哉。又何加焉。頃年拜洛東泉涌之舍利。毫末無差。因茲倍知。傳持之不虛也。然今擇工雕殿。安踰雪之真身。奉之於地。藏薩埵之室閣。欲結當來引導之妙緣。乃至八苦四生垂拱一真之臺。三界六道充足。不捨之檀。乃治第二龍集。己亥九月日欽書。

圓忍律師行狀

真政圓忍律師賀州石川郡吉藤鄉人也。父窪田氏

母長谷川氏。慶長十四年己酉四月二十之夕。月上東山之時。誕焉。其胎也。母不苦惱。及其生也。亦不勞倦。師少小志樂佛教。耽讀聖典。見聞之者。歎其非常。十四辭親。投國之伏見密寺。禮快玄阿闍黎。為師。夙夜受誨。十五薙染。漸習瑜伽。十八入金剛峯寺寶光院。就長青阿闍黎。稟兩部灌頂。則預彼寺僧籍。務習密教。三十過賢俊良永律師。真別處授阿字觀入心。修持明年。遂從之。著應法衣。受沙弥戒。堅持策勵。超於常倫。於是逾忘寢食。觀練薰修。一日忽得輕安。於法信解決。尔來一食不臥入住深山。遍歷絕巘。

多聞院主某傳而持之。室翫仰崇焉。而今予之采地

接彼寺境。故與某僧結盟。過常於是。懇請切求。遂得

如願。豈非幸哉。又何加焉。頃年拜洛東泉涌之舍利

毫末無差。因茲倍知。傳持之不虛也。然今擇工雕殿

安踰雪之真身。奉之於地。藏薩埵之室閣。欲結當來

引導之妙緣。乃至八苦四生垂拱一真之臺。三界

六道充足。不捨之檀。乃治第二龍集。己亥九月日欽

書

圓忍律師行狀

真政圓忍律師賀州石川郡吉藤鄉人也。父窪田氏

母長谷川氏。慶長十四年己酉四月二十之夕。月上

東山之時。誕焉。其胎也。母不苦惱。及其生也。亦不

勞倦。師少小志樂佛教。耽讀聖典。見聞之者。歎其非

常。十四辭親。投國之伏見密寺。禮快玄阿闍黎。為師

夙夜受誨。十五薙染。漸習瑜伽。十八入金剛峯寺寶

光院。就長青阿闍黎。稟兩部灌頂。則預彼寺僧籍。務

習密教。三十過賢俊良永律師。真別處授阿字觀入

心。修持明年。遂從之。著應法衣。受沙弥戒。堅持策勵

超於常倫。於是逾忘寢食。觀練薰修。一日忽得輕安

於法信解決。尔來一食不臥入住深山。遍歷絕巘。

常事靜慮三十七由大聖慈尊菩薩通受三聚淨戒羯磨受具足戒五夏安居之際四時觀誦之暇戒業行事之疏鈔懺悔教誡之儀文莫不研究篇聚名報之品持犯開遮之區咸悉通習凡其所宗仰愛樂則阿字門大空無相之妙義也常以之在心而兼以六和四攝四無量心攝護自他深悲害命喜行放生常行忍辱心絕瞋嫉無報怨於他之心有洽施於人之情是故路逢丐者必施其食正保四年六月六日良永律師掩化師嗣為第二世又慶安中法隆寺北室院了性明空律師唱滅遺言以彼住持囑于師也

又往攝之勝尾厥峯絕遠阻塵寰居然愜意棲遲數歲觀練彌力寬文年中詣洛西法輪寺遇有以法印究習瑜伽委付道教之秘藏飽足醍醐之法味者蓋在於師矣黃檗隱元和尚及其法嗣木菴國師者俱中華一世之導師也遁太清之亂入吾扶桑邦人初疑執信之者鮮矣師與之相見討論心要發明道機因而彼之徒隨師受梵網菩薩大戒之者若干自是而後臨濟正宗輝赫本朝蓋由師之贊助之故也寬文累年卒上九陽累月不雨庶民窮甚競以事情具告于師師即行請雨法甘雨滂沱邦國豐安同九

常事トス静慮三十七ニシテ由テ大聖慈尊菩薩通受ノ三聚淨戒羯磨受具足戒五夏安居之際四時觀誦ノ暇マ戒業行事ノ疏鈔懺悔教誡ノ儀文莫不研究篇聚名報ノ品持犯開遮ノ之區咸悉通習凡其所宗仰愛樂則阿字門大空無相ノ妙義也常以之在心而兼以六和四攝四無量心攝護自他深悲害命喜行放生常行忍辱心絶瞋嫉無報怨於他之心有洽施於人之情是故路逢乞丐者必施其食正保四年六月六日良永律師掩化ス師嗣為第二世又慶安中法隆寺北室院了性明空律師唱滅遺言以彼住持囑于師也

又往攝之勝尾厥峯絕遠阻塵寰居然愜意棲遲數歲觀練彌力寬文年中詣洛西法輪寺遇有以法印究習瑜伽委付道教之秘藏飽足醍醐之法味者蓋在於師矣黃檗隱元和尚及其法嗣木菴國師者俱中華一世之導師也遁太清之亂入吾扶桑邦人初疑執信之者鮮矣師與之相見討論心要發明道機因而彼之徒隨師受梵網菩薩大戒之者若干自是而後臨濟正宗輝赫本朝蓋由師之贊助之故也寬文累年卒上九陽累月不雨庶民窮甚競以事情具告于師師即行請雨法甘雨滂沱邦國豐安同九

羊以真別處退讓快圓慧空律師矣凡就師受具為大僧之者其員甚多慧空律師其之翹楚也正今南方律幢興起四方之人具瞻靡風之者蓋師夏臘殷富戒珠瑩徹觀行洞達德馨熏馥之所致也寬文十二年三月下旬因空公之請點泉州神鳳寺鳥山以爲四方僧坊使其門弟攝護矣師之所撰修善要法集三卷初學要法集三卷並行于世

誦經表白

夫傳法灌頂密儀者

覺皇登極玄格五智溟海水灌之頭頂

法帝紹祚靈璽五峯金剛杵授之手掌

然則

苟非含弘宏器不克受之  
實非卓犖神機不輒發之

大行稱其絕離地論顯其不說職而斯由矣

伏惟現前大河闍黎耶寺務檢校法印大和尚位

學識優贍

聰敏超軼

況復

風姿挺特

該通顯密猶有餘蘊  
搜尋事教復無贍馥  
群駿爭馳不見其比

年以真別處退讓快圓慧空律師矣凡就師受具為大僧之者其員甚多慧空律師其之翹楚也正今南方律幢興起四方之人具瞻靡風之者蓋師夏臘殷富戒珠瑩徹觀行洞達德馨熏馥之所致也寬文十二年三月下旬因空公之請點泉州神鳳寺鳥山以爲四方僧坊使其門弟攝護矣師之所撰修善要法集三卷初學要法集三卷並行于世

誦經表白

夫傳法灌頂密儀者

覺皇登極玄格五智溟海水灌之頭頂

法帝紹祚靈璽五峯金剛杵授之手掌

然則

苟非含弘宏器不克受之  
實非卓犖神機不輒發之

大行稱其絕離地論顯其不說職而斯由矣

伏惟現前大河闍黎耶寺務檢校法印大和尚位

學識優贍

聰敏超軼

況復

風姿挺特

該通顯密猶有餘蘊  
搜尋事教復無贍馥  
群駿爭馳不見其比

志氣淵博、至若  
 施資填委、倉庫盈溢、是故  
 慈育諸弟、誘撫四來、其或  
 剏神祠、構佛堂、補僧舍、修禪室、  
 萬人競歸、尚如未足  
 高名普聞、於率土之所致  
 善種嘗殖、于宿世之使然  
 沾彼恩澤、之族不少  
 賴其德蔭、之輩居多  
 無不規製中權、悉是整飭倍舊

遂使  
 講論屢力、戒臘殷富、是以  
 衆推密乘之尤、數膺親教之選、爰兩受者新阿闍梨耶  
 自而來久矣、非適于今也  
 諸院鴻業並稱、其妙貫首重職已窮、其上  
 因緣時節早熟、同被阿闍梨之聽許、功德馨香夙熏、共逢毗灑迦之際會、就中現住禪下

志氣淵博ナリ、至若  
 施資填委ス、倉庫盈溢ス、是ノ故ニ  
 慈育ス諸弟ニ、誘撫ス四來ニ、其レ或ハ  
 剏メ神祠ニ、構メ佛堂ニ、補メ僧舍ニ、修メ禪室ニ、  
 萬人競ヒ歸ス、尚如レク未ダカレ足  
 高名普ク聞ニ、於率土ニ之ノ所ナリ致ス  
 善種嘗ク殖ニ、于宿世ニ之使レルナリ然ラ  
 沾レ彼ノ恩澤ニ之族、不レ少カラ  
 賴ルニ其ノ德蔭ニ之輩、居多ク  
 無レ不ト云コト規製中レ權ニ  
 悉ク是レ整飭倍舊ニ

遂使  
 講論屢力メタリ、戒臘ニ富メリ、是依  
 衆推ニ密乗之尤ト、數膺ニ玉ヲ親教ノ之選ニ、爰兩受者新阿闍梨耶  
 自而來レルコト久シ矣、非レ適メタルニ于今ニ也  
 諸院ノ鴻業並ニ稱ス其ノ妙ニ、貫首ノ重職已ニ窮メ玉ヘリ其上ニ  
 因緣時節早ク熟シテ、同ク被ルニ阿闍梨ノ之聽許ニ、功德ノ馨香夙ニ熏シテ、共ニ逢フニ毘灑迦ノ之際會ニ、就中現住禪下

性質穎悟、相見則鑿徹肺腑、  
 行業純淑、其勤又分竭、力、  
 茲乃、邁衆英而擢碩才之科第、  
 陰功累積、遇大樹以賜、渥寵之膏腴、  
 陽報彰灼、  
 方今、已顯自家之三昧耶、  
 性戒遮戒齊、慣、將證已有之兩部界、  
 梵讚梵唄更奏、嗚呼幸哉、誰不隨喜、  
 抑、又此道場者

賢公先弘公後、祖宗進修非是汎尔勝境、  
 源君古薩君今、本枝檀興信復天然奇數、  
 前烈定添菩提妙嚴、先哲又增涅槃常樂者乎、  
 觀夫、  
 檜杉交抄、本具万德之林撲面、  
 蘭菊互葩、法然五智之色遮眼、  
 景趣已相稱、悉地何不成、  
 於、是、  
 扣九乳之鳧鐘、驚九會之鵝王、  
 退三障之妨礙、禱三部之加被、

性質穎悟ナリ、相見レハ則チ鑿徹ニ肺腑ニ  
 行業純淑ナリ、其ノ勤又分ニ竭リ力ヲ  
 茲ニ乃チ、邁コヘ衆英ニ而擢ニ碩才ノ科第ニ  
 陰功累積シテ、遇ニ大樹ニ以賜ニ渥寵ノ膏腴ニ  
 陽報彰灼ナリ、  
 方今、已ニ顯ニ自家ノ之三昧耶ニ  
 性戒遮戒齊ク慣ナラ、將レ證ニ已有ノ之兩部界ニ  
 梵讚梵唄更ニ奏シテ、嗚呼幸ヒナル哉、誰ガ不ニ隨喜セ  
 抑、又此ノ道場ハ者

賢公ハ先キ弘公ハ後チ、祖宗進修セリ非ニ汎尔ノ勝境ニ  
 源君ハ古ヘ薩君ハ今マ、本枝檀興ス信ニ復天然ノ奇數ナリ  
 前烈定テ添ヘ菩提ノ妙嚴ニ、先哲又増ニ涅槃ノ常樂ニ者乎  
 觀レハ夫レ、  
 檜杉交レ抄ヲ、本具万德ノ之林撲ツ面ヲ  
 蘭菊互ヒニス葩ヲ、法然五智ノ之色遮レ眼ニ  
 景趣已ニ相稱セリ、悉地何ソ不成セ  
 於レ是ニ、  
 扣ニ九乳ノ之鳧鐘ニ、驚シ九會ノ之鵝王ニ  
 退ニ三障ノ之妨礙ニ、禱ニ三部ノ之加被ニ

仰乞玄鑒 俯應丹祈

敬白

吉野山金剛藏王講表白

慎敬白 眞言教主大日如來金剛胎藏兩部諸尊圓滿報身盧遮那佛一代教主釋迦善逝三密上乘甚深祕藏一百億部顯教契經普賢金剛手等摩訶薩埵不動降三世等諸忿怒尊殊本朝高祖遍照金剛三國傳燈諸大師等總佛眼所照帝網鏡光互相涉入不可說不可說三密境界而言  
夫以

仰乞玄鑒 俯心丹祈

敬白

吉野山金剛藏王講表白

慎敬白 眞言教主大日如來金剛胎藏兩部諸尊圓滿報身盧遮那佛一代教主釋迦善逝三密上乘甚深祕藏一百億部顯教契經普賢金剛手等摩訶薩埵不動降三世等諸忿怒尊殊本朝高祖遍照金剛三國傳燈諸大師等總佛眼所照帝網鏡光互相涉入不可說不可說三密境界而言  
夫以

片玉分影於衆色  
一雨施澤於分卉  
如來有應行相  
適化無方神用

碧綠各隨其能映  
大小偕被其所潤

是以

蓋以如斯

山毫三密  
地墨四身  
若金杵若金甲  
曰明王曰明妃

凝妙相而森列  
執本標以駢填

無非群類引攝方便  
悉是普門示現權巧

片玉分影於衆色  
一雨施澤於分卉  
如來有應行相  
適化無方神用

碧綠各隨其能映  
大小偕被其所潤

是以

蓋以如斯

山毫三密  
地墨四身  
若金杵若金甲  
曰明王曰明妃

凝妙相而森列  
執本標以駢填

無非群類引攝方便  
悉是普門示現權巧

粵本尊金剛藏王者

尋其本地、窮彼源濫

無量壽尊、則為智慧門之總主

斷滅難斷之勝利、併在此純德

釋迦文佛、又為精進道之統領

調伏難調之巨益、偏歸此本誓

縛日羅播拏華、翻金剛手

五智、峯杵明照、眾生心性

伐折羅陀羅唐言執金剛

五百大神恒作諸佛翊從

粵本尊金剛藏王者

尋其本地、窮彼源濫

無量壽尊、則為智慧門之總主

斷滅難斷之勝利、併在此純德

釋迦文佛、又為精進道之統領

調伏難調之巨益、偏歸此本誓

縛日羅播拏華、翻金剛手

五智、峯杵明照、眾生心性

伐折羅陀羅唐言執金剛

五百大神恒作諸佛翊從

抑又

言其迹、則

語其用、則

因茲

應化一代、說教

秘密兩部、界會

加旃

信、則為仙中主

童子與藏王名異、而體同

除障與降魔、詮別而趣一

每教發護持之弘誓

每會作守衛之大將

長生不死之術、不訪自得

長生不死之術、不訪自得

妙極堂遺稿卷之五

抑又

言其迹、則

語其用、則

因茲

應化一代、說教

秘密兩部、界會

加旃

信、則為仙中主

童子與藏王名異、而體同

除障與降魔、詮別而趣一

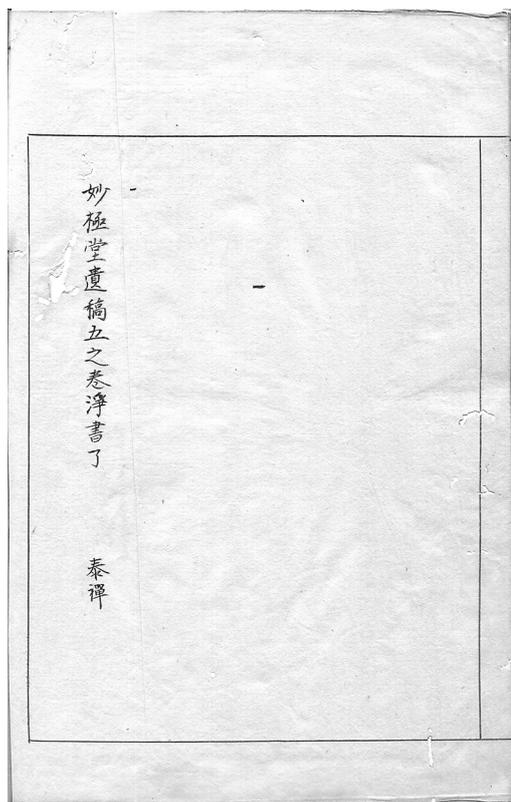
每教發護持之弘誓

每會作守衛之大將

長生不死之術、不訪自得

長生不死之術、不訪自得

妙極堂遺稿卷之五



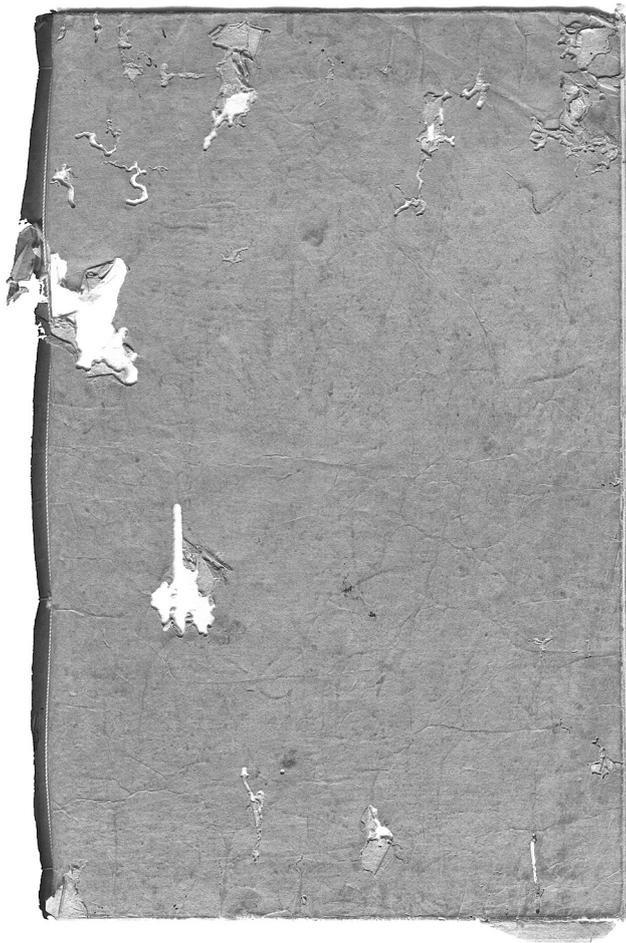
妙極堂遺稿五之卷淨書了

泰禪

(白丁)

「⑤裏表紙見返

「⑤36  
ウ



⑤裏表紙

(てらつ まりえ 生活機構研究科生活文化研究専攻修了生)  
(せきぐち しずお 歴史文化学科)